

昭和九年度

石川縣水產試驗場事業報告

昭和九年度 石川縣水產試驗場事業報告

目次

漁撈部

一、露領沿海州出漁試驗	一
二、鯖漁場調查	一四
三、對岸沖鯖漁業試驗	一九
四、深海漁場調查	二八
五、定置漁具改良試驗	二九
六、海洋調查	四〇
七、漁況通信	四七
八、鰯標識放流	四七
九、漁船各員養成	四八
十、潛水講習	四九

製 造 部

一、 鱈水煮罐詰製造試験 五一

二、 フィッシュミル製造試験 五二

三、 簡易乾燥装置試験 五六

四、 鯖其他水族利用試験並に製造講習 五八

五、 指導其他の事項 六六

附 録

一、 昭和九年度決算表 折込

二、 昭和九年度末現在本場員氏名擔任表 六七

漁

撈

部

一、露領沿海州出漁試驗

(一) 趣 旨

大型底曳網漁船の出漁誘導を目的とせしめる前年度よりの繼續事業にして漁場の範圍及漁獲量を調査し兼ねて本縣より通流する場合の經濟關係をも明にせむとす。

(二) 期 間

春 期 自四月十七日至五月三十一日

計四十五日間

秋 期 自十月六日至十月二十四日

計 十九日間

(三) 方 法

本場試驗船白山丸(八九噸一六、二〇〇馬力、六噸冷蔵機付)に監督者一名、船長以下十五名、外に甲板部及機關部各傳習生二名宛計二十一名を乗組ましめ一艘曳手繰網漁法に依り操業し漁獲物は本船内に冷蔵し内地に持歸り陸揚す。

(四) 漁具及副漁具

手繰網 二統 構造は前年度圖示の通り

曳 網(全部) 徑一寸二分 マニラロープ 六 丸

徑五分 ワイヤロープ 百八十尋

徑三分 鎖 十二尋(三、四貫)

徑七分 撚 戻し 四 個

ウインチ 一 臺 三十馬力

大 槓 二 丁 口徑二尺二寸

(五) 經 過 (漁業日誌及漁場圖参照)

第一 航海

四月十七日出帆、一路露領沿海州漁場に向ふ、十九日午前七時漁場着直に操業開始、二十二日午前十一時迄に總計十六回操業し、鰯二二九箱、鱈二六二箱、其他二七箱、合計五一八箱を漁獲し即刻歸途に着き二十四日午前六時半宇出津着漁獲物を陸揚せしに手取金七〇二圓五八錢を得たり。

第二航海

四月二十五日早朝、場地發漁場へ向ひたるも時化模様となり正午引返して蛸島港へ避難し翌二十六日出帆、二十八日午前五時十分漁場に到着す、直に操業を始め二十九日午後一時までに操業九回にして、鰯一九箱、魷三二箱、鰈五五二箱、其他一六箱、合計六一九箱を漁獲し直に歸途に就き五月一日午前十一時宇出津入港、漁獲物を陸揚して手取金八〇〇圓九六錢を得たり。

第三航海

五月三日午前八時半場地發、五日午前八時半漁場着、直に操業を始めたるに第一回は網、岩根に掛りて操業を中止し漁獲四箱に過ぎず、第二回は魚過多なりし爲め網袋破損したるも一四九箱を残り以後七日午後一時迄に十四回操業し、鰯四五箱、魷三五箱、鰈六六二箱、其他二二箱、合計七七〇箱を漁獲して歸途に着き九日午前宇出津港着、漁獲物の陸揚を爲したるに手取金九八八圓八九錢を得たり。

第四航海

五月十一日午前十時半場地出帆、漁場へ向ひ十三日午前五時着、直に操業を始め十五日午後九時までに操業十八回、内一回は漁具破損して漁獲皆無なりしも、鰯六三四箱、魷六〇箱、鰈三九箱、其他七三箱、計八〇六箱を漁獲し歸途に就き、十七日午後十時富山縣伏木港に漁獲物陸揚の目的にて寄港せしも魚價安の爲め見合せ翌日前地發、午後五時宇出津港着、直に漁獲物の陸揚を爲したるに手取金六〇一圓一六錢を得たり。

第五航海

五月二十二日午前八時半場地發、漁場へ向ふ、二十四日午前八時漁場着、操業を始め以後二十六日夜まで續行、午後九時より假泊せしに二十七日午前三時頃より南東の風浪大に高まり、同六時避難の爲め雄基へ向ふの餘儀なきに至れり。同日午後五時雄基着、在泊一晝夜にして二十八日午後四時漁場へ向ふ。

二十九日未明漁場着、操業を開始し同日午後十時作業を打切る、操業回数前後二十回にして、鰹一四六箱、鯨六六箱、鰹四〇一箱、其他二一八箱、計八三一箱を漁獲せり、直に歸途に就き三十一日午後四時宇出津入港、漁獲物の陸揚を行ふ。手取金四六〇圓五五錢なり、之を以て春季出漁を終る。

第六 航海

十月六日午前九時、場地發漁場へ直航す、八日午後二時漁場着、操業を始め翌九日午後九時までに投網七回にして、鰹一〇〇箱、鯨一四箱、鰹五二二箱、其他二五二箱、計八八四箱を漁獲し即時清津に向ひ發航す。十日午後二時清津着、腐敗の虞ある甲板積の鰹魚一四二箱、鰹八箱、鰹一山を陸揚し手取金六五圓九七錢を收得し、同日午後十時前地發歸途に就き十三日午後四時宇出津入港、魚船積の漁獲物を陸揚げしたるに手取金五六五圓六一錢を得たり。

第七 航海

十月十五日午後六時場地發、漁場へ向ふ、十八日早曉漁場着、直に操業を開始し十九日午前十時までに投網僅に六回にして、鰹九四一箱、鰹一六箱、計九五七箱を漁獲し歸途に就き、二十一日午後六時伏木港へ入港し當日漁獲物の一部陸揚を爲し、以後二十二日、二十三日の二日間に亘りて殘部の陸揚を行ひ手取金合計八二五圓〇四錢を得たり。

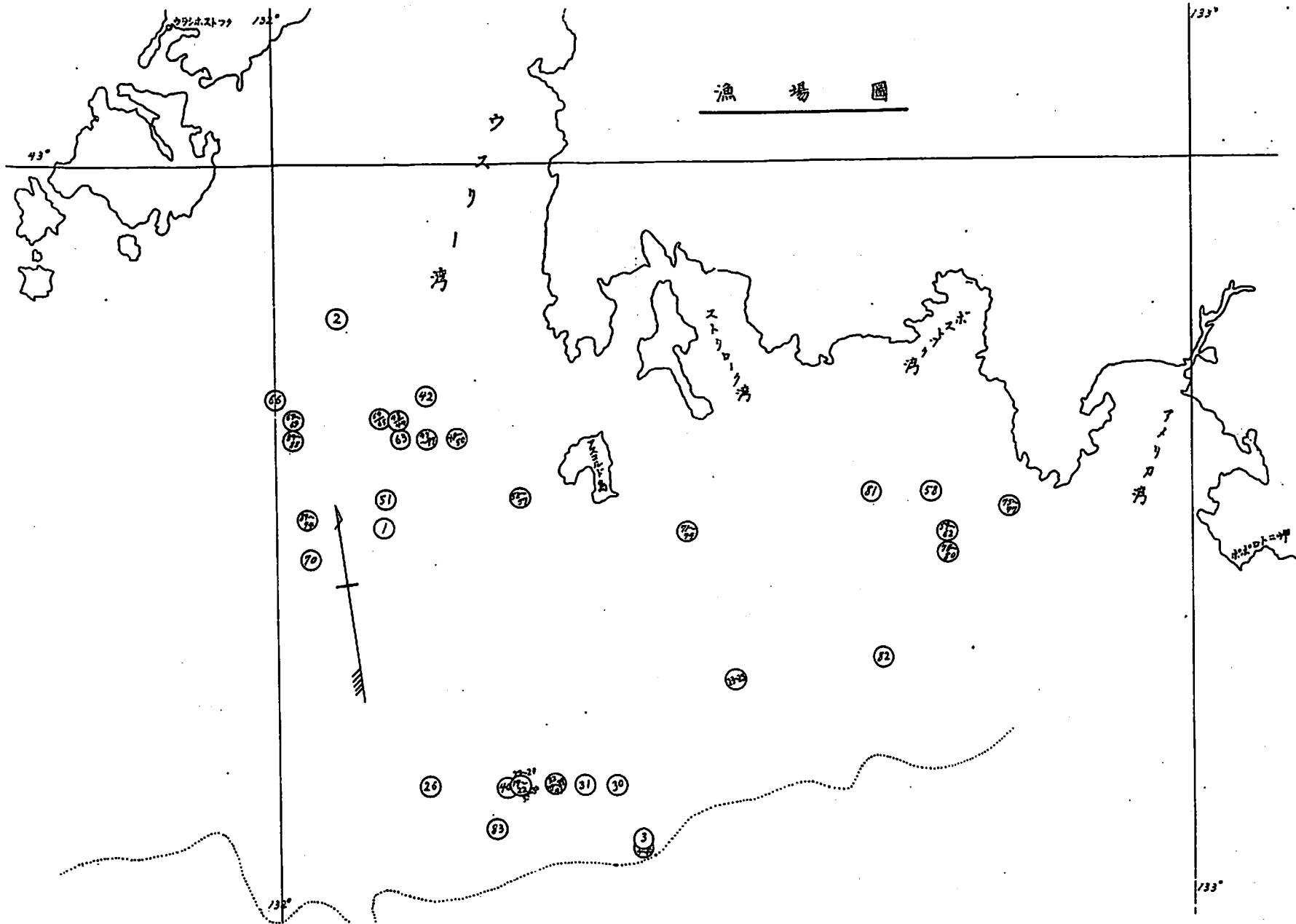
漁業日誌

月 日	號番	漁場位置		天候 風向 風力	氣温	表面 水温	水深	漁獲物				記 事	
		緯度北	經度東					たら	すけと	かれ	其他		
四月 一七日				晴		九七							午前八時十分宇出津發漁場ニ向ヒ航行
同 一八日				晴		四八							航海中
同 一九日	1	アスコ ルド島	西十 度	霧		二三	五						午前七時漁場着操業ニ着手セルモ機関故障ノ爲メニ二回操業ニテ止ム
同	2	アスコ ルド島	北西 西二五 度	霧		二〇	七						

同	同	同	同	同 一五日	同	同	同	同	同	同 一四日	同	同	同	同	同	同 一三日	同 一二日
55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40		
同	同	同	四分 分度	四分 分度	同	同	四分 分度	同	同	四分 分度	同	四分 分度	四分 分度	四分 分度	四分 分度	四分 分度	四分 分度
同	同	同	三分 分度	三分 分度	同	同	三分 分度	同	同	三分 分度	同	三分 分度	三分 分度	三分 分度	三分 分度	三分 分度	三分 分度
				北 二					北 二						西 一	東 二	霧 二
				三〇					五八						三五	四〇	四五
五八	五八	五八	五八	五八	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一二	一二	
六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	六	六	六	六	六	五	五	五
三	一	二			三	一	一	二	一	三	五	四	七	二	二	二	
一	七	二		一	二	七	三		一	三	七	五	三	二	三	三	
五	四	六		六	九	七	五	六	三	五	六	三	六	八	四	四	
三	三	二			五	七	一	六	二	一	一	五	二	一	一	一	
			漁具破損ニ付漁獲ナシ	午前四時二十分操業始メ	午後八時五十分操業中止				午前四時操業始メ	午後八時五十分操業中止					午前五時二十分漁場着操業始メ		航 海 中

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
79	78	77	76	75			74	73	72	71	70	69	68	67	66	65			
同	四分度	同	同	四分度			同	同	同	四分度	四分度	同	同	四分度	四分度	同			
同	四分度	同	同	四分度			同	同	同	七分度	七分度	同	同	七分度	七分度	同			
				晴 西北	晴 西北	曇 東南	雨 東南					曇 南	曇 西						
												一 二・六							
六・七	六・七	六・七	六・七	六・七			六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	六・九	七・二	七・二	七・二	七・二			
三〇	三〇	元	元	元			四	四	四	四	四	四	四	四	四	四			
二	三	六	九	三			三	二					二	一	五	一			
二	一	三	一	二			二	二		一				一	三	一			
一六	一五	一四	三〇	三六			五	九	二	三	四	七	七		四	六			
一六	一三	一九	一七	一			三	四	一	一		二	八	二	二	二			
				午前 三時二十分 漁場着同 四時操業始メ	午後 三時四十分 雄基發 漁場へ向フ	午前 三時頃ヨリ 風浪高クナリ 雄基ニ向フ	午後 五時十五分 雄基着碇泊					午前 五時操業始メ	午後 八時三十分 操業打切 假泊ス						

漁場圖



(六) 結果

航海日數、操業日數及操業回數表

同	二四日					北西	二	一九・二									午後五時三十五分伏木發歸途ニ就キ同九時半宇出津港ニ歸港秋季本試験終了
同	二三日					北西	一	二五・六									同 右
同	二二日					北東	一	一九・三									前地碇泊漁獲物ノ陸揚ヲ行フ
同	二一日					東	二	一八・七									午後六時十分伏木着漁獲物ノ陸揚ヲ行フ
同	二〇日					西北	四	二五・二									航海 中
同	一九日	94	同	同		西	五	八・七					二三	二六			午後六時操業始メ午前十時十分漁獲滿船ニテ伏木港ヘ向ケ航行
同		93	同	同					三・三				三	二八			午後六時四十分操業中止
同		92	同	同					三・三				四	二九			
同		91	同	同					三・三				五	三〇			
同		90	同	同					三・三				四	三一			
同	一八日	89	同	同		北西	三	八・六	三・三					二五	四		午前五時漁場着操業始メ
同	一七日					南西	一	三・八									同 右
同	一六日					北東	二	四・〇									航海 中
同	一五日					西	二	五・〇									午後六時二十分宇出津發漁場ヘ向フ
同	一四日					南西	二	三・〇									前地碇泊

季別	航海次	航海日數	操業日數	操業回數
春季	第一航海	八日	四日	一六回
同	第二航海	八日	二日	九回
同	第三航海	七日	三日	一四回
同	第四航海	七日	三日	一八回
同	第五航海	一〇日	三日	二〇回
秋季	第六航海	八日	二日	七回
同	第七航海	九日	二日	六回
合計		五七日	一九日	九〇回

備考 航海日數には根據港出帆より歸着までを算入す

前表に依り七百兩滿船速力九節の白山丸を基準として一航海の所要日數を考察するに操業日數に於て魚群の疏密に依り長短倍數の差を生せるも第五航海の如く雄基に避難するか、第七航海の如く他所に寄港せざる限り正味日數八日にて足るべく、之に内地在泊一日を加へて九日を全日數と見れば計畫上妥當ならむ。

又航海日數に對する操業日數の比率を見るに三分の一に當り往復に大部分の日時を費すに鑑み成るべく大型船を用ゆるか、運搬船と漁船數隻とを組合せ、漁船は漁期中漁場に在りて操業を續くるを得策なりと認む。

航海別漁獲成績表

季別	航海次	鰯	鯧	鰯	其ノ他	計	價額	單價(兩)
春季	第一航海	三三 <small>兩</small>	一 <small>兩</small>	二九 <small>兩</small>	七 <small>兩</small>	五六 <small>兩</small>	七三・六	一・四二七
同	第二航海	一九	三	五三	二六	六九	八〇・六	一・三九三

備考 一箱容量六貫乃至七貫入りとす

同	第三航海	壹	壹	六三	三	七三	九八・八	一・三五
同	第四航海	三元	六	六四	七	八五	五三・八〇	〇・六九〇
同	第五航海	一六	六	四〇	三八	八三	四七・〇〇	〇・四八
秋季	第六航海航	二〇	四	五三	三五	八六	五五・六二	〇・六元
同	第七航海	二六	一	六四	一山	九七	八〇・六	〇・八七
合	計	六七	一〇七	三・九二	六〇六	五・四二	四・九〇・三	

前表に依り沿海州漁場の漁獲物の種別を見るに鰈類其の七割四分を占むるを知るべく、魚價亦最も高きを以て漁場探索にも之を主眼とするを可とす。鰈は前年度報告にも記せる如く五月上旬まで及十一月中旬以後の冷水期は百尋附近の深所に退き、暖期は三、四十尋の淺所に集る習性ありて、蘇聯漁船の如きは六月に入ればウスリー灣奥二十尋の水深にて操業すといふ。本邦船は爾く深入りせず概ねアスコルド島の東西並び附近なるが同島を境とし魚群西に濃厚に東に稀薄なるが如し。理由は西、細砂泥底にし餌料豊に東、粗砂底にして之に反するに因るならんか。

次に魚價の高低を見るに、春漁に在りては初期と末期に格段の差あり、暖氣の加はるゝ共に魚の鮮度を保持し難きも其の一因なるも、主因は寧ろ内地漁業の漁獲の有無に在りたり。秋漁の魚價概して低きは沿海州出漁船の増加せしに依るものにして將來各縣共既許可船の全部が出漁するは明なれば特殊の變化なき限り春秋を通じ一函、七、八十錢平均が相場ならんか。尙漁期は前年報告通り三月下旬より五月末まで出漁して一應中止し、更に九月より十二月初旬まで出漁するを採算上最も有利なりと認むるものにして他縣從漁船の實例に徴するも何等改むべき所無きも、今年度白山丸の出漁を十月下旬に打切れるは一に經費關係に因る。

二、鯖漁場調査

(一) 趣 旨

本事業は數年來の繼續事業にして日本海沖合に於ける鯖の移動及び其の原因、漁獲率等を調査し、所謂母船式延繩漁業を起し以て、本縣大型漁船特に夏季禁漁期間中の機船底曳網漁船の事業たらしめんとするに在り。

(二) 期 間

自六月七日、至七月十四日、三十八日間

(三) 方 法

試験船白山丸(八九噸一六)に漁艇四艘を積載し母船式延繩漁業を行ふものにして漁艇一艘にて一回の操業に二十鉢乃至三十鉢を使用し豫備ミ合し、計三百鉢を持参す。一航海約一週間、操業日數三日なり。

(四) 漁具及餌料

漁具は構造前年度通りに付き省略す。餌料は二、三月建網にて漁獲せられたる中羽鰻及五月頃漁獲せられたる大羽鰻を鹽藏し置きて用ひたり。中羽鰻は二、三、大羽鰻は三、四に筒切ミし使用せり。

(五) 經 過

第一航海試験開始當時能登外海沿岸に於ける鯖延繩漁業薄漁の爲め困憊甚だしきに依り之れが希望を容れ、六月八日より十日まで三日間小型發動機漁船の出漁範圍たる七ツ島及舢倉島近海の調査に従事せしも、僅に大鯖百二十一尾、小鯖十八尾、河豚九十七尾の漁獲にして見込無きを以て十日歸場す。漁獲物の賣價金七圓九十錢に過ぎず。

第二航海十二日午後一時出帆、大和堆附近の漁場へ向ひ十三日より本格的に試験を開始し十五日までに投繩四回にして大鯖六千二百七十九尾、中鯖一千百十尾、小鯖三山、河豚二十五尾を漁獲し、十六日場地入港、漁獲物の陸揚を爲し金四百二圓八十四錢を得たり。

第三航海十九日午前七日場地出帆、二十日午前三時漁場着、直に操業を始め二十二日午前十一時までに投繩四回にして大鯖五

より操業を始め十時終る。十二日は天候不良なる爲め再び漂蕩し、十三日は午前、午後の二回投縄し、計三回の操業にて大鯖三千三百三十尾、中鯖一千二百尾、小鯖十山、河豚三箱を漁獲し十四日午後一時場地入港、漁獲物の陸揚を爲し金一百十二圓五十七錢を得たり。

以上試験期間三十八日中の出漁日數二十四日にして、内従業日數十四日なり。此の内一日二回操業せしこみ四日、總投縄回數十八回ミす。漁獲數量は大鯖二萬千九百二十二尾、中鯖四千二十五尾、小鯖二十山外二十八尾、河豚九十七尾にして之れが價額金九百二十四十二錢なり。

尙六月十九日より七月三日に至る二航海には當業者六名を漁艇二艘を携帶便乗せしめ、大和堆漁場にて本船漁艇ミ共に従漁せしめたり。

從 漁 日 誌

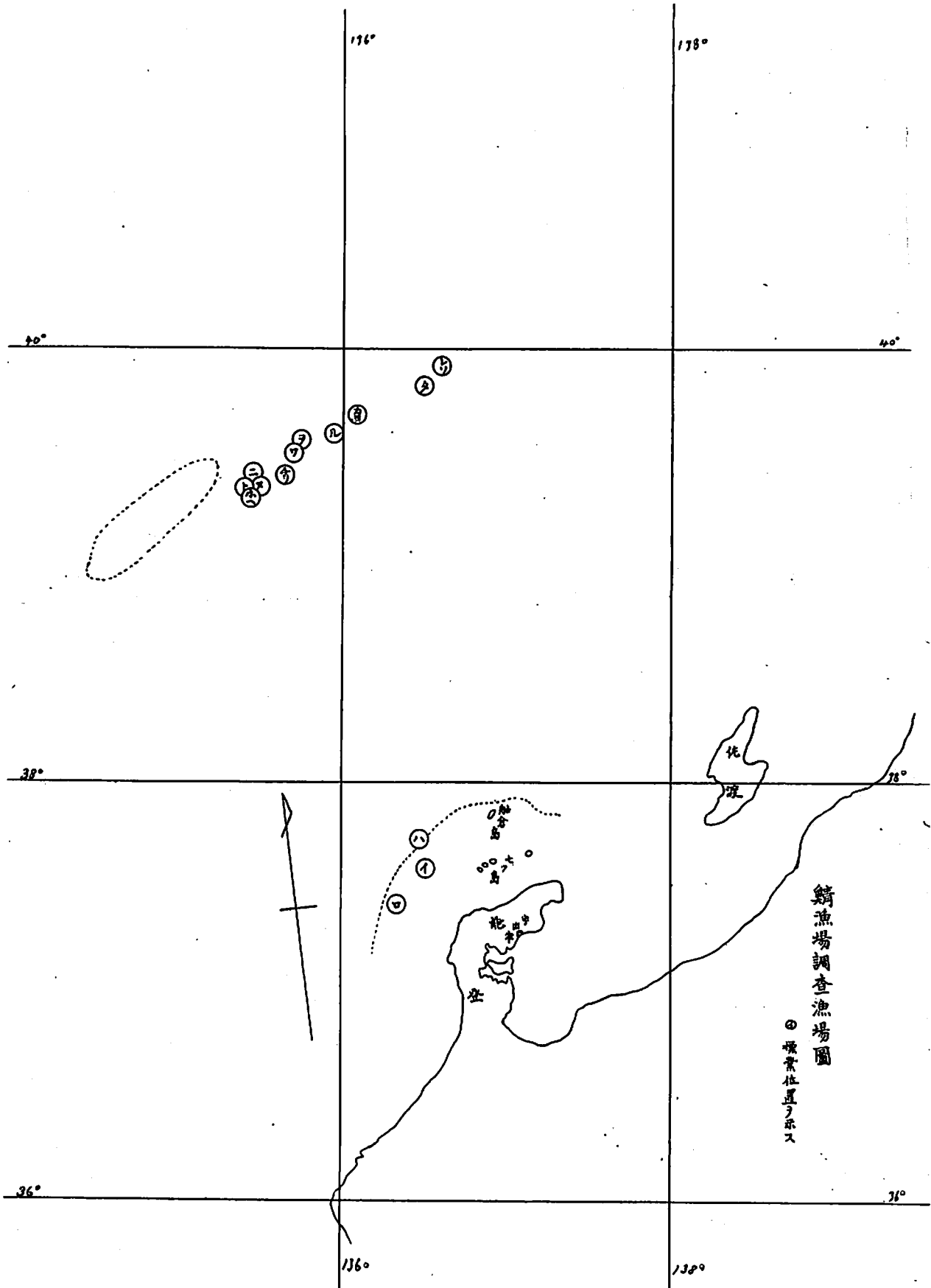
水溫ハ右ヨリ表面一〇尋ニ〇尋

月 日	漁場 符號	漁場位置	風向風力	水 溫	潮 流	漁 獲 物			摘 要
						種 類	數 量	金 額	
六 月 七 日									宇出津出帆漁場に向ふ
同 八 日	イ	北緯 一五・三三 東經 一五・三三	東 二	二五・九八 二三・九五		大サバ 小サバ フグ	一八 三三 五		午前四時三十分入繩始め同八時操業終了

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	
チ					ト	ヘ	ホ	ニ		ハ	ロ	
東北緯 一五・四三					東北緯 一五・三〇	同	東北緯 一五・七六	東北緯 一六・〇七		東北緯 一六・〇七	東北緯 一六・〇七	
北東 二		同	南 一	南西 二	南西 三	同	西 二	東ノ北 二	北東 二	南西 一	西 二	
一四九・〇 六五・五〇					一四六・三 〇四・七三	一四七・八 九四・八一	一四七・八 九四・八一	一三七・五 一一・二〇		一六一・六 〇一・五五	一三六・九 〇〇・〇〇	
小中大 サササ バババ					フ小中大 サササ グバババ	中大 ササ ババ	小中大 サササ バババ	フ小中大 サササ グバババ		フサ グバ	フ小中大 ササ グババ	
一八七 二五・五					一七四 一五・七〇	一四三 三〇・〇〇	一六三 三〇・〇〇	一四三 三〇・〇〇		一四七 四七・〇〇	一四三 五五・〇〇	
							四〇二・八				七・九〇	
午前三時操業始め八時第一回操業終る	午前七時宇出津發漁場へ向ふ	重油積込の爲七尾へ向ふ	漁具整理を行ふ	午前二時宇出津入港同六時より漁獲物陸揚を行ふ	午前四時採業開始同十時終る直に歸途に就く	午後一時第二回操業始め同四時終る	午後四時採業始め同十一時第一回操業終る	午後四時採業始め同十一時終る	午後一時出帆漁場へ向ふ	漁具整理を行ふ	午前三時採業始め同六時三十分終り歸途に就き午後一時着碇泊	午前三時採業始め七時三十分終る漂流

	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	二	七	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
	ヨ	カ	ワ	ヲ							ル	ヌ	リ	
	同	東北緯 一五.〇〇 一五.〇〇	東北緯 一五.〇〇 一五.〇〇	東北緯 一五.〇〇 一五.〇〇							東北緯 一五.〇〇 一五.〇〇	東北緯 一五.〇〇 一五.〇〇	同	
		北西 一	南西 三	東 二	南東 二	南西 二	南西 二	西南西 二	南々西 一	南々東 一	南 二	南西 三	南東 三	
		二四.八 三〇.五	二四.七 三〇.三	二四.九 三〇.三								二四.八 三〇.〇	二四.八 三〇.〇	
	中大 ササ ババ	中大 ササ ババ	小中大 サササ バババ	小中大 サササ バババ								小中大 サササ バババ	小中大 サササ バババ	小中大 サササ バババ
		二一.〇〇 二九.五	二一.七五 二七.五	二一.〇五 二九.五								二一.〇〇 二七.五	二一.〇〇 二七.五	
			二六.六八										二七.六四	
	午後〇時三十分第二回操業始め	午後〇時三十分第二回操業始め	午後〇時三十分第二回操業始め	午後〇時三十分第二回操業始め	午後〇時前地發漁場へ向ふ	午前十時場地發所要の爲舢倉島へ午後四時着假泊す	同	同	同	漁具整理を行ふ	午前六時十分宇出津入港漁獲物の陸揚を行ふ	午前四時操業始め午前十一時三十分終る直に歸途に就く	午前中波浪高く操業見合午後一時三十分開始同八時終る	午後一時三十分第二回操業始め同四時終る

同	同		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十四日	十三日		十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日
	ソ	レ		タ								
	同	東北緯 一五・壹		東北緯 一五・壹								
北東二		北東二	同	北東四	西四	南西三	東一	同二	南西三	北東一	北一	南東一
		一九 一四 一六 一七 一九		一九 一〇 一八								
	小中大 サササ バババ	フ小中大 サササ グバババ		小中大 サササ バババ								
	二五 三〇 三三 山	一四 一六 一八 二〇 二二 山		一五 一七 一九 二一 二三 山								
	二三・毛											
切とす	午後一時十分宇出津入港漁獲物の陸揚を行ふ本日を以て試験打	午後二時第二回操業始め同六時終る直に歸途に就く	午前五時操業午後〇時第一回操業終る	天候不良に付漂流す	午前五時操業始め同十時終る	午前三時漁場前時化模様付漂流す	午前九時五十分場地發漁場へ向ふ	取油秋込の爲七尾へ向ふ	同	同	同	午後二時四十五分宇出津前直に漁獲物の陸揚を行ふ
												延縄整理を行ふ



鯖漁場調査漁場圖

○ 調査位置ヲ示ス

(六) 結 果

本試験に於ては漁獲數に於て前年度に比し、多く遜色無かりしも縣下夏大數網の大漁にて第三航海以後、魚價頓に下落し金額に於て甚だしく劣れり、但し二航海に亘り當業者を操業に參加せしめたる事は大和堆漁場の價值認識及本事業の民業化に得る所尠なからず。

次に大和堆を中心とせる日本海中央の沖鯖の移動に就ては前二ヶ年の報告に大槪を掲げたるが、更に本場三ヶ年の試験及鳥取、島根、兵庫、福井、諸縣の調査を綜合するに、三月對州水道より日本海に入り込める鯖は暖流及季節の進みに伴ふ適温水帯(十二、三度)の擴大に連れ寒暖兩水の境界線を限界として次第に北東に移動するものと如く其の徑路は暖流の三派に一致す、即ち裏日本の沿岸を洗ひて津輕海峽に達する一派、朝鮮東岸に沿ひ沿海州沖合に至る一派及兩者の中間を鬱陵島より大和堆を経て津輕海峽に至る所謂東鮮暖流の一派に夫々獨立の鯖群の洄游ありと認めらるゝものにして七、八月の候、大和堆又は之より秋田縣沖に移動する魚群が魚體瘠せ、體色薄く沿岸洄游のものに截然區別し得るに鑑み證さすべし、但し本系統の魚群も内鮮兩沿岸を上下する魚群と全然別種を爲すものにあらずして唯餌料の少なき洋上を洄游するため脂肪を缺くも、南鮮又は對州水道まで回歸すれば他系のものと混淆すを考へられ、他方津輕海峽附近に於ても内地沿岸を北上し來れるものと東鮮暖流系沖鯖とは混淆すべしと察せらるゝも之等は追つて標識放流の結果に俟たむとす。

三、對岸沖鯖漁業試験

一、趣 旨

前年施行の北鮮鯖漁業試験の成績に鑑み小型發動機漁船に依り同方面に於ける鯖延繩漁業の事業として成立の可能性充分なるを認め囑託試験の意味及漁場を沿海州沖に及ぼす目的にて本事業を實施したり。

二、期 間

自七月十七日、至十月十三日

三、方 法

北鮮清津港を根據地として試験船白山丸に漁艇四艘を積載し母船式操業法を行ひ、同時に同伴せる當業者の小型漁船（七噸一〇馬力）二隻に、漁場の揀定及操業法等を傳へ試験機構の一部をなしたり。

四、經 過

七月十七日當業者の小型發動機漁船二艘（宇出津町並吉重作及木引才次郎所有）を曳航し一路北鮮清津港に向ひ二十日午前一時清津港に到着し、直に宿舍借受け及出漁準備に着手し二十二日完了、即夜當業者船二艘を曳船し漁場へ向ひ二十三日午前三時より午後四時三十分までに操業二回にして大鯖九十尾を漁獲し同日午後九時清津着、翌二十四日漁獲物の陸揚を爲したるに金五十四圓七十二錢を得たり。同日午後六時清津發、再び漁場へ向ひ二十六日午前六時より操業を始め午後一時三十分終る。鯖百五尾、鱈四百五十尾を漁獲し、二十七日は早朝より操業始め九時三十分終り、鯖百五尾、鱈二百尾を漁獲し同日午前十一時三十分清津着、漁獲物の陸揚を爲し金十六圓二錢を得たり。

以上二航海にして略當業者の同方面に於ける操業方法會得の様子なるを認め白山丸は經費の關係上指導を打切り二十八日清津發歸場し、爾後の試験を兩船に托せり。兩船は其の後七月中は漁具改造等に日を費やし僅に一回出漁し好漁を見たるより八月中旬まで連日出漁し、一日多きは千四百尾の漁獲ありしも次第に薄漁となり十九日より休漁せり。廿四日一回出漁せるに魚群稍々増加の感ありしも鱈害甚だしく且荒天多く操業困難なるを以て九月上旬までは柔魚釣又は鯖の一本釣に従事し、同月中旬より延繩に復せり。廿二日より秋鯖の好漁となり魚價亦一尾十錢を稱ふるに至り大いに前途に希望を囑せしも、乗組員中、二、三脚氣に艱む者を生じ折角の好機を迎へしに係はらず歸國に決し、十月中は五回從漁せしのみにて十日沿海州底曳漁業試験出漁の白山丸に曳航せられて清津出帆、十三日宇出津に歸着せり。

本事業中當業者船二隻は共同の計算をなし、縣としては之れに百圓の補助を與へ且北鮮への往復航海は白山丸にて曳走せしめたるものなり。兩船の事業收支左の如し。

收 入
支 計 算

一金壹千七拾圓五拾八錢也

但し大鯖一萬六千四百九十五尾、小鯖一千百九十尾、鯷六百七十六尾、刀魚九十尾

支 出

一金九百貳拾九圓七拾壹錢也

內 譯

金參百七拾參圓五拾參錢

金貳百貳圓九拾五錢

金七拾四圓六拾五錢

金壹百六拾七圓八錢

金參拾六圓

金貳拾壹圓

金五拾四圓五拾錢

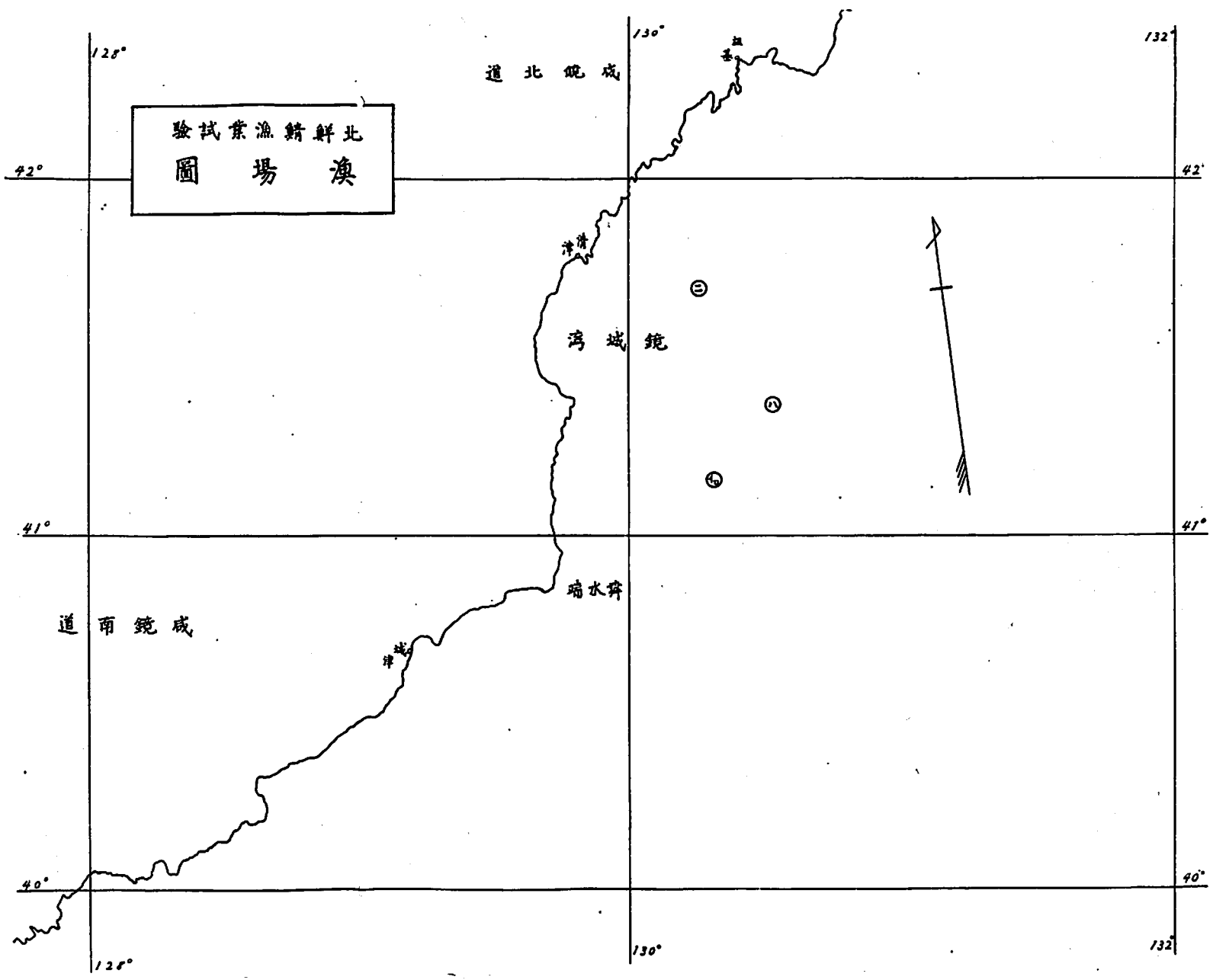
一金壹百四拾圓八拾七錢也

漁 夫 給 料
油 夫 給 料
佃 夫 食 費 代 料
漁 夫 食 費 代 料
家 賃
諸 稅 金
雜 費

從 漁 日 誌 利 益 金 白 山 丸

月 日	漁場符號	漁場位置	風向風力	水 溫	潮 流	漁 獲 物			摘 要
						種 類	數 量	金 額	
七月 十七日			南東 一						午前八時場地發清津へ向ふ
同 十八日			北 一						航海中
同 十九日			東 一						同 右

同 二日	八月一日	同 三十一日	同 三十日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日	同 二十四日	同 二十三日	同 二十二日	同 二十一日	同 二十日
						=	ハ			ロ	イ		
						清津ノ東南東 二〇凧	清津ノ南東 四〇凧			同	清津ノ南々東 四三凧		
東ノ南一	北二	南一	西一	同	北々東四		南西三	南一			南東一	東一	南東一
						一八三 四三〇 四五〇	一九七 四七 四一			三六九 〇四〇	三六九 〇四〇		
						スサ ケ ト ベ	スサ ケ ト ベ			同	サ バ		
						二〇五 一五〇	二〇五 一五〇			三六五	五五		
						一六〇				五七三			
午後十一時十分宇出津着試験切揚を行ふ	航海中	午後十一時三十分前地邊歸途に就く	午前九時五十分仙崎港着碇泊	航海中	午前六時十五分清津着仙崎へ向ふ	午前四時四十分操業始め九前三十分終る直に清津へ向ふ十一時三十五分着	午前六時操業始め午後一時三十分終る	午後五時四十分清津發漁場へ向ふ	漁獲物の陸揚を行ふ	午前十一時第二回操業始め午後四時三十分終る直に清津へ向ふ九時清津着碇泊	午前三時操業始め同九時半第一回終る	午後十時二十分出帆漁場へ向ふ	午前一時清津着碇泊



驗試業漁鮮北
圖場澳

道北鏡咸

天津

灣城鏡

瑞水奔

道南鏡咸

塘沽

①

②

③



漁業日誌

囑託漁船

月日	天候	風	水		温		投網開始時間	揚網終了時間	投網釣数	漁獲魚名	数量	備考
			表面	十尋	二十尋							
月 日	天候	風	表面	十尋	二十尋	投網開始時間	揚網終了時間	投網釣数	漁獲魚名	数量	備考	
七月 二六日	曇	南西	一九・〇	一八・〇	一五・〇	午前四時三十分	午後三時三十分		サケトバ	六〇 七〇		
同 二七日	曇	北東										休漁 漁具整理
同 二八日	雨	同										休漁
同 二九日	同	同										同
同 三〇日	同	北										同
同 三一日	曇	南西	一九・〇	一八・〇	一五・〇	午前三時三十分	午前九時三十分		サケトバ	九〇		休漁
八月 一日	同	同										同
同 二日	同	同										同
同 三日	同	北東	一八・〇	一七・〇	一五・〇	午前三時三十分	午前九時三十分		サケトバ	一三〇		
同 四日	晴	南東	一八・〇	一七・〇	一五・〇	同	同		同	一五五		
同 五日	同	北東	一八・〇	一八・〇	一五・〇	同	同		同	一七〇		
同 六日	雨	南西	一八・〇	一七・〇	一五・〇	同	同		同	三〇〇		休漁 漁具整理
同 七日	晴	南							サケトバ	三〇〇		
同 八日	同	同	一八・〇	一七・〇	一五・〇	午前四時三十分	午前二時三十分		サケトバ	六〇〇		

同	二五日	同	南															休	漁
同	二四日	同	南東	三〇〇	二〇〇	一八〇	前	五〇〇	前	一〇〇	サ	バ	一三〇						
同	二三日	同	南西															同	
同	二二日	同	南															同	
同	二一日	同	南西															同	
同	二〇日	晴	南東															同	
同	一九日	曇	南															休	漁
同	一八日	同	北東	一九〇	一六〇	一五〇	前	四〇〇	前	一〇〇	同		三〇〇						
同	一七日	同	南西	一九〇	一八〇	一六・五	前	四〇〇	前	一〇・三〇	サ	バ	三〇〇						
同	一六日	同	同															休	漁
同	一五日	同	南															休	漁々具整理
同	一四日	同	南西	一九〇	一八〇	一五〇	同	五〇〇	同	一〇・一〇	同		三〇〇						
同	一三日	同	南	一九〇	一八〇	一五〇	同	四〇〇	同	一〇・〇〇	同		三〇〇						
同	一二日	晴	南東	一九五	一八〇	一五〇	同	四〇〇	同	一〇・三〇	同		三六〇						
同	一日	同	南	一九五	一八〇	一五〇	前	四〇〇	前	一〇・〇〇	サ	バ	一三三					同	
同	一〇日	雨																同	
同	九日	曇																休	漁

同	二九日																		
同	三〇日	雨	北				前五・〇〇	前二・〇〇	サ	ハ		三〇							
	一〇月一日	晴	北																
同	二日	同	西																漁夫病氣ノ爲メ休漁
同	三日	同	南				前五・〇〇	前二・〇〇	サ	バ		一五							
同	四日	同	西																休漁
同	五日	同	同				前五・〇〇	前二・〇〇	サ	バ		五							餌料ナキニ因リ休漁
同	六日	同	同																
同	七日	同	同						大サバ	小サバ		一〇〇	二〇〇						
同	八日	同	〇				前五・〇〇	後〇・〇〇	大サバ			一五							
同	九日	同	北東																漁事切揚歸郷準備

結 果

白山丸二回の出漁を除き當業者二隻の成績を見るに鱸害に悩まれたるは前年度の白山丸の場合と同じきも夏鮪漁薄くして秋鮪に好況を示せるは今年度の特徴なり。又漁具は清津着後二、三航海にして改造し枝系の長さを一尺餘とし、釣数を従來の三倍にして幹繩の延長を減じ、作業を敏活にして漁具の水中に在る時間を短縮し鱸害を免るゝに資せしが釣數に對する漁獲率は二割五分乃至三割に及べるより見れば、魚群の濃度は内地沿岸に比し遙かに優り大和堆漁場に劣らざるを知るべし。

今年度の試験に於て漁期の長かりし割に漁獲高の上らざりしは荒天打續きしこゝ、業者の鮮海に不案内なるこゝ及秋鮪の好漁期に入り病者を出し意氣阻喪せしに依るべく、引續き毎年出漁するに於ては各種の好條件加はり、事業として成立すべきを疑は

ざらなり。

四、深海漁場調査

一、趣旨

本事業は前年度に於ては經費の都合に依り之れを中止せしも、縣下沖合二百米線以上の深海に棲息する魚族の移動状態及漁場底質を闡明ならしめ一般當業者船の操業上の利便を計るに共に新規漁場を發見せむとするに在り。

二、期間

自昭和十年一月十日、至同廿一日

三、方法

試験船白山丸を以て一艘曳手繰網を使用す。

四、漁具の構造

露領沿海州出漁試験に使用せるものと同一なるを以て省略す。

五、經過及結果

宇出津港を根據とし、主として能登小泊沖合に於ける調査に従事せり。此の試験期間十二日間に漁四日、内從漁二日、航行二日にして、他は荒天其の他事故に依り豫定の出漁を爲し得ざりしものなり。漁獲物は、鱈、蟹、其の他漁獲金十九圓なりき。

操業日誌

月	日	漁場位置	風向風力	漁獲物			摘	要
				魚名	数量	金額		

一月十日				一月十一日				一月二十日				一月二十一日							
東北 經緯 一七〇・六		同		東北 經緯 一七〇・六		同		東北 經緯 一七〇・六		同		東北 經緯 一七〇・六		同					
北 二		北東 二		同		南 一		西 二		西 三		同		南 三					
カス タ ケ ニ トラ		同		同		其 カ ス タ ケ ニ トラ		カ タ ニ ラ		同		カ ニ		同					
一 三 八 六		一 二 七 〇		一 二 六		一 山 二 五 五		一 二 四		一 七 三		一 山							
		二・四						七・美											
午前四時宇出津出帆漁場へ向ふ同七時三十分 漁場着直に操業始め				泊す				午後四時三十分操業を停止し入網に繋船し假 泊す				午前一時頃より天候時化模様となり揚網始め 同二時終り歸途に付く六時宇出津入港す 午前三時四十分場地出帆漁場へ向ふ同十時四 十五分漁場着操業始め				午後五時十五分漁場發歸途に付く同七時三十 分宇出津入港 午前〇時三十五分宇出津入港す本試験切揚せ			

五、定置漁具改良試験

(一) 趣旨

本事業は昭和六年度よりの繼續事業にして本縣重要漁業たる鰹定置漁業の改善發達を期する目的を以て漁具一統を敷設して其の材料、構造の得失を研究し、他面海況と漁況との關係を調査せむにあり。

(二) 期間及方法

經費の關係上前年度同様宇出津町府波吉治氏に囑託し共同試験の形式を採れり、其の囑託條件次の如し。

一、石川縣水産試験場(以下甲と稱す)は被囑託者府波吉治(以下乙と稱す)に定置漁具改良試験を囑託し、鰮角網一統を經營して各種試験調査を行はしむ。

二、右試験を囑託するに當り甲は左の物件を乙に貸與す。

イ、糸網一統

ロ、本場備付きのロープ類にして、他に用途無きもの各種

三、乙は本試験の施行に當り甲の貸與せる以外の所要物件及一切の經費を負擔するものとす。

四、試験期間は本年度二月初めより次年度四月末日に至る三ヶ月間とす。

但し事情に依り甲乙協議の上變更するこゝを得。

五、乙は漁獲金額(漁獲物販賣手數料を控除せるもの)の百分の十を甲に納付するものとす、本年度三月末に於て一回の精算を了し漁期終了後更に殘餘期間の精算を爲すべし。

六、漁況不振にして乙の收得額が其の負擔額に満たざる場合と雖も甲は之れが補償の責に任せざるものとす。

七、漁具設置の方法及操業法等に就ては乙は甲の指揮に従ふものとす。

八、乙は甲に對し囑託條件受諾の證として請書一通を提出するものとす。

(三) 漁夫其の他従業員

従業員總數十三名にして内十一名は網漁夫(網舟七名、口舟二名、臺舟二名)他は曳船用發動機船々長一名、機關士一名にして雇傭條件前年と同じく歩合制に依る。

(四) 漁場、漁船及漁獲物運搬法

前年度通りに付き省略す。

(五) 漁具

前年度通りに付き省略す。

(六) 経過

十二月中旬より漁具敷設準備に着手し一月二十八日を以て陸上に於ける準備を了し、翌二十九日より漁具敷設に着手せるも荒天又急潮の爲め二月八日まで十一日間を要し、九日より操業を開始し四月三十日まで八十一日間の漁期中漁獲日數三十六日にして總漁期の四割四分餘、漁獲皆無日數は四十五日にして、漁期の五割五分餘に當る。尙ほ急潮の爲め全然休漁せしこゝ五日にして半日休漁は十五日なりしも荒天に依る休漁日數皆無なりしは近年なき現象なりき。漁況は一般に不振なりしが本試験に於ても水揚高金貳千參百九拾貳圓拾四錢に止まれり。

漁業日誌

月日	天候	風		氣温	水		比		潮向	潮速	水色透明度	漁獲物			備考
		風向	風力		表面	四〇米	表面	四〇米				魚名	數量	金額	
一月二十九日															漁具敷設作業始メ
同三十日															敷設作業
同三十一日															同
二月一日	晴	北西	二・五	一〇・八	二・〇	二・〇	二四・五	二五・三	二五・六	北東	弱	二・五			同
同二日	同	南西	二・七	一〇・八	二・四	二・三	二四・七	二四・九	二五・二	同	同	二・〇			同
同三日	曇	北	三・五	一〇・三	一〇・八	一〇・九	二四・二	二五・〇	二五・七	同	稍強	一〇・五			同
同四日															時化ノ爲メ敷設作業中止
同五日															同

同 六日																				風強ク敷設作業中	
同 七日	雪	北西	三一七	一〇三	一〇五	一〇六	二四九三	二五三三	二五六	北東	強	二三〇								北東急潮及風強ク 作業中止	
同 八日	同	西南西	二二七	一〇五	一〇八	一〇八	二四九三	二五二五	二五六	同	弱	一五〇								本日夕刻マデニ敷 設完了ヒリ	
同 九日	晴	南	一六三	一〇六	一〇七	一〇七	二五〇七	二五〇八	二五六	同	同	一四・五	鯉	九舟	四三・〇〇						
同 十日	雨	北	二五四	一〇四	一〇五	一〇五	二四九五	二五二〇	二五〇	同	同	二三・五	同	六舟	三四・〇〇						
同 十一日	曇	西	三六一	一〇四	一〇四	一〇四	二五〇〇	二五三三	二六一	同	同	二二・五	同	六舟	二四八・〇〇						
二月十二日	同	北東	二二三	一〇〇	一〇三	一〇三	二五〇七	二五三三	二五三	西	稍強	二二〇								漁獲ナシ	
同 十三日	雪	北	一一〇	一〇二	一〇二	一〇二	二五〇九	二五三七	二五〇	東	弱	二二・五								同	
同 十四日	晴	西	二三二	九八	一〇二	一〇二	二四九七	二五二二	二五四	北東	同	二三〇								同	
同 十五日	雨	南西	二八四	一〇〇	一〇二	一〇三	二五三三	二五〇〇	二五〇	東	同	二三〇	鯉 マイカ ヤリイカ	二舟 二六尾 一山	四四・〇〇 八・〇〇 八・〇〇						
同 十六日	曇	北	二九二	一〇四	一〇三	一〇五	二五三三	二五三三	二五六	北	弱	二三〇								漁獲ナシ	
同 十七日	雨	北々西	二六二	一〇二	一〇五	一〇五	二五〇九	二五八	二五三	西	弱	二三〇	鯉	一山	九・三〇						
同 十八日	晴	北東	一五三	一〇二	一〇二	一〇二	二五〇三	二五二五	二五五	北	稍強	一四・〇	イカ	二舟 一尾	七・四〇						
同 十九日	曇	西	一二七	一〇〇	一〇三	一〇三	二五二二	二五三三	二五五	北東	弱	二二〇								漁獲ナシ	
同 二十日	雨	北西	四四五	九・九	一〇四	一〇五	二五二六	二五四	二五四	同	同	二三〇								同	
同 二十一日	晴	南東	二六三	一〇三	一〇四	一〇四	二五〇五	二五二二	二五七	南東	弱	二五〇	鯉	二舟	八・〇〇						
同 二十二日	雨	北	三八五	一〇三	一〇四	一〇三	二五〇〇	二五八	二五八	南	強	二三〇								漁獲ナシ	

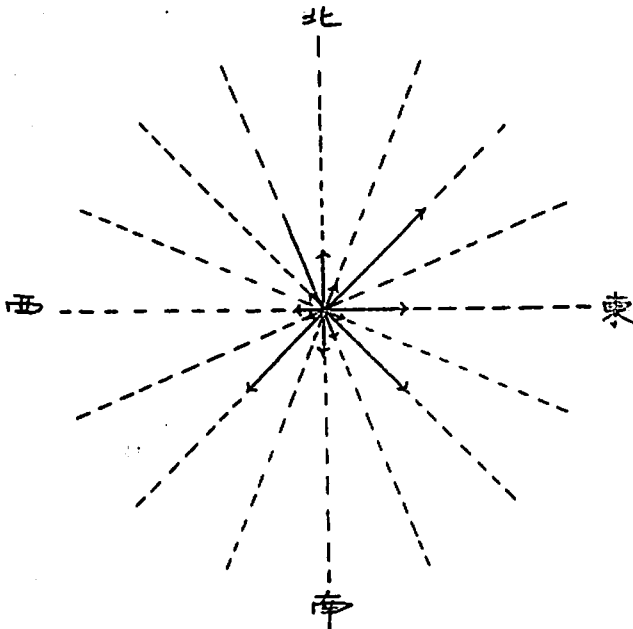
同二十三日	曇	北々西	三	五六	九・七	一〇・四	一〇・四	一〇・四	三五二	三五八	三五六	南東	弱	三・〇	鯉	六舟	三〇・〇		
同二十四日	晴	南東	一	七〇	一〇・二	一〇・三	一〇・三	三五六	三五七	三五三	三五三	東	同	三・〇	同	一舟	四・〇		
同二十五日	同	東	二	八六	一〇・三	一〇・四	一〇・四	三五二	三五三	三五四	同	同	同	一〇・〇	同	二舟	五・〇		
同二十六日	雨	北東	三	九二	九・八	一〇・四	一〇・四	三五七	三五五	三五七	南西	同	同	三・〇	同	四舟	一五・〇		
同二十七日	曇	北西	一	九三	一〇・〇	一〇・四	一〇・四	三五四	三五八	三五九	南西	同	同	三・〇	同	二舟	三・〇		
同二十八日	晴	南西	二	一〇・四	一〇・三	一〇・五	一〇・五	二四八三	三五七	三五三	南東	同	同	九・二	同	五舟	二二・〇		
三月一日	同	北西	三	六五	一〇・二	一〇・五	一〇・五	二四四四	三五六	三五三	南西	強	同	二・〇	同	一舟	三六・〇	午後急潮ニテ休漁	
同二日	同	南々東	二	九三	一〇・四	一〇・五	一〇・五	二四八八	三五三	三五五	東	稍強	同	三・〇	同	四舟	二七・六	午後急潮及風強ク休漁	
同三日															同	二舟	三三・〇		
同四日	雨	南西	四	四一	九・二	一〇・四	一〇・五	二四九二	三五七	三五七	南西	弱		三・〇	同	一舟	一四・〇		
同五日	雪	西	五	三五	一〇・二	一〇・二	一〇・二	二四九五	三五二	三五九	南東	強		三・〇	同	一舟	一四・〇	午後急潮ニテ休漁	
同六日	曇	同	四	三一	九・九	一〇・二	一〇・二	二五〇六	三五六	二五四	南西	稍強		二・〇				漁獲ナシ	
同七日																			同
同八日	晴	南	二	七四	一〇・二	一〇・三	九・三	二五九	二五七	二五四	北東	稍強		二・〇	イカ	三〇尾	七・六		
同九日																			時化ニテ休漁
同十日	曇	北西	三	八三	一〇・〇	一〇・三	一〇・三	二五二	二五九	二五九	南	強		三・〇					午前漁獲ナシ午後急潮ニテ休漁
同十一日	晴	同	三	四一	九・六	一〇・〇	一〇・二	二五六	二五四	二五九	北東	同		二・五					急潮ニテ休漁

同二十八日	曇	東	四	六・七	九・八	九・九	九七	二五九	二五五	二五〇	同	同	一〇・〇			午後急潮ニテ休漁	
同二十七日	晴	西南西	三	五・七	九・八	一〇・〇	一〇・〇	二五〇	二五三	二五七	南西	強	一〇・五	鯉	一舟	二〇〇〇	午後急潮ニテ休漁
同二十六日	曇	西	四	七・五	九・八	一〇・〇	一〇・〇	二五〇	二五〇	二五二	南東	稍強	一〇・〇			漁獲ナシ	
同二十五日	晴	北西	四	七・八	九・八	一〇・〇	一〇・〇	二四三	二五七	二四九	南々東	強	九・五	同	一山	八〇〇	午後急潮ニテ休漁
同二十四日	雨	北東	二	九・八	九・八	一〇・一	一〇・一	二四九	二四八	二五七	北々東	弱	九・〇	鯉	二舟	四〇〇	
同二十三日	同	同	三	八・三	一〇・〇	一〇・三	一〇・三	二五三	二五六	二五五	西	同	一〇・〇			漁獲ナシ	
同二十二日	晴	東	三	六・三	九・八	一〇・一	一〇・一	二五八	二五七	二五八	北西	稍強	九・〇	鯉	一舟	二二〇〇	
同二十一日	同	北東	二	四・〇	一〇・一	一〇・三	一〇・三	二五九	二五七	二四〇	南西	強	一一・〇			漁獲ナシ	
同二十日	曇	北西	二	五・三	九・九	一〇・三	一〇・三	二五三	二五七	二五六	南東	同	一一・〇	鯉	一山	二〇〇〇	
同十九日	晴	南西	三	三・一	一〇・三	一〇・三	一〇・三	二五〇	二五八	二五〇	東	同	九・〇			漁獲ナシ	
同十八日	曇	北東	四	九・八	一〇・一	一〇・三	一〇・三	二五七	二四九	二四七	西南西	弱	一〇・五	鯉	二舟	二六〇〇	
同十七日	晴	南	二	七・五	一〇・三	一〇・三	一〇・三	二五〇	二五六	二四〇	北東	稍強	一一・〇			漁獲ナシ	
同十六日	雨	北西	三	五・五	九・九	一〇・四	一〇・四	二五五	二五五	二五五	南々東	同	九・〇			時化ニテ休漁	
同十五日	晴	東南東	二	七・八	一〇・三	一〇・四	一〇・四	二五三	二五〇	二五七	同	強	一三・〇	同	二舟	三・〇〇	午後急潮ニテ休漁
同十四日	雨	同	一	四・九	九・五	一〇・〇	一〇・四	二五三	二五六	二五二	同	同	一〇・〇	同	一舟	四〇〇〇	
同十三日	曇	北西	三	六・六	一〇・〇	一〇・三	一〇・一	二四六	二五三	二五五	南東	弱	一三・〇	鯉	七舟	一五・三〇	
同十二日														イカ	尾	三・八〇	午後時化ニテ休漁

同二十九日	晴	北東	四	七・三	九・七	九・五	九・五	九・五	九・六	二四九六	二五〇四	二五五	北々東	弱	九・〇	同	漁獲ナシ
同三十日	同	北	二	五・三	九・三	九・五	九・五	九・五	九・六	二四九六	二五〇四	二五五	北々東	弱	九・〇	同	漁獲ナシ
同三十一日	同	東北東	四	六・五	九・五	九・五	九・五	九・五	—	二四八八	二五七	—	北	稍強	九・〇	同	午前漁獲ナシ 午後急潮ニテ休漁
四月一日	同	東	二	八・七	九・四	九・五	九・七	九・七	—	二四九〇	二四九六	二五六	北東	強	六・〇	同	午前漁獲ナシ 午後急潮ニテ休漁
同二日	同	北西	三	六・六	九・四	九・六	九・五	九・五	—	二五〇八	二五〇五	二五四	南西	弱	七・〇	同	漁獲ナシ
同三日	同	東	三	七・三	九・三	九・六	九・五	九・五	—	二五四	二五九	二五六	同	強	九・〇	同	午前漁獲ナシ 午後急潮ニテ休漁
同四日	雨	北東	一	八・八	九・八	九・九	九・六	九・六	—	二五〇三	二五四	二五四	北	弱	八・〇	同	漁獲ナシ
同五日	晴	北西	二	〇・八	一〇・四	九・九	九・九	九・五	—	二四六五	二五三	二五八	南東	稍強	九・〇	同	同
同六日	曇	同	三	八・二	九・六	九・九	九・六	九・六	—	二五〇二	二五七	二五〇	南西	同	九・〇	同	同
同七日	晴	北東	四	七・七	九・九	九・九	九・六	九・六	—	二五三	二五二	二五七	南東	同	九・〇	同	同
同八日	同	東	二	三・七	一〇・五	九・九	九・九	九・六	—	二五二	二五八	二五三	北東	弱	九・〇	同	同
同九日	曇	南	一	三・五	一〇・八	一〇・二	九・九	九・九	—	二五四	二四九五	二五〇	北	強	—	同	同
同十日																同	同
同十一日																同	同
同十二日																同	同
同十三日	晴	南東	二	六・八	一一・八	一〇・三	九・九	二五〇五	二四九	二五〇九	二五九	—	東	弱	—	同	漁獲ナシ ルモ直ニ修繕ヲ行フ
同十四日	曇	北東	四	二・五	一〇・七	一〇・一	一〇・〇	二五〇四	二五三	二五三	二五三	—	南	稍強	—	同	漁獲ナシ

五月一日	同 三十日	同 二十九日	同 二十八日	同 二十七日	同 二十六日	同 二十五日	同 二十四日	同 二十三日	同 二十二日	同 二十一日	同 二十日	同 十九日	同 十八日	同 十七日	同 十六日	同 十五日
	曇			同	晴		曇	同	同	同	同	同	同	晴	曇	
	西			東	南東		南	西	南西	北西	東	北東	北西	東	北東	
	五九・三			二二〇・三	一一五・七		二二三・九	一一三・四	三三三・八	二二三・五	三三三・七	四〇〇・九	三三四・二	一八九・九	三三〇・八	
	二二・六			一一五・八	一一三・三		一一三・三	一一・四	一一三	一〇・九	一一一・七	一〇・九	一一五	一〇七	二二〇	
	二二・五			一一二	一一三		一一〇	一〇・六	九・八	一〇・三	一〇・七	一〇・四	一〇・三	一〇・三	一〇・八	
	—			一一二	一〇七		一一〇	一〇・四	九・六	九五	九七	九七	一〇・一	一〇・〇	一〇・三	
	二五・六			二五・九	二五・三		二五・三	二五・七	二五・七	二五・六	二五・三	二五・五	二五・一	二四・八	二四・〇	
	二五・〇			二五・七	二五・四		二五・五	二五・八	二五・六	二五・二	二五・七	二五・二	二五・三	二五・三	二五・三	
	—			二五・三	二四・八		二五・七	二五・六	二五・二	二五・五	二五・三	二五・三	二五・三	二四・四	二五・七	
	南西			南	東		東	北	東南東	同	南東	東	南西	南東	南西	
	稍強			同	弱		稍強	弱	同	強	稍強	弱	強	稍強	強	
	一〇・〇			一一・〇	一〇・〇		七・五	一三・〇	二二・〇	二二・〇	一四・五	一三・〇	三三・〇	—	—	
	鯰	鯰 アソコ	鯰							同	同	鯰	鯰		イカ	
	一山	一山 一尾	一山							一舟	一舟		一舟		一山	
	三・四三	一・八〇 二・二三	一・〇〇							三・〇〇	一九・三〇		四・〇〇		三・八〇	
	網揚作業ヲナス	本日ヲ以テ本試験 ヲ切上ケタリ		同	漁獲ナシ	時化ニテ休漁	同	漁獲ナシ	急潮ノ爲メ袖切斷 シ直ニ修繕ヲ行フ	午後急潮ニテ休漁		漁獲ナシ	午後急潮ニテ休漁	漁獲ナシ	午後急潮ニテ休漁	時化ニテ休漁

(七) 結果



計	同三日	同二日
三五七四	網揚終了	同

(1) 海況及氣象と漁況との關係

潮流 本漁期を通じ北東流第一位を占め南西流、南東流、東流之れに次ぎ其の他の潮流を見るも特記すべきものあらず、又急潮の爲め休漁の止むなきに至れる潮流は南西流又は東流にして最も漁獲多かりし潮流は北東流にして南東流之れに次ぎ、南西流、東流、北々東流、西南西流の順位となる、之れ要するに潮流の方向は漁具自體の形狀を變化せしむるものにあらざる限り漁獲を見るものと推定し得らる。

水温 (鰻漁期既往四ヶ年水温表参照) 漁期の初期に於て各層共例年より二、三分低温を示し、盛期に於ては何れも一度内外の高温となり終期に於ても依然高温を示したり、而して本年の海況中最も變調なりと認むべきは水深九十米の海區に於ては下層暖くして表面冷く磯近く、即ち四十五米の海區に於ては下層冷たくして表面暖く其の差何れも一度乃至二度を示せる事にして、之れが爲めか一般に四十五米線附近に敷設せる漁場は豐漁を見たるも九十米線以深に敷設せるものは薄漁に終り、全般には不漁年となれり。

風 向 風は北より西に至るもの卓越し氣象観測七十一日中十六日を數へ總日數の二割二分を占め、次は北東風の一割六分九厘にして他は東風、西風等の順序なり。今漁獲との關係を見るに鰯漁獲有りし總日數三十二日の内、北西風にて漁獲を見しは八日にして二割五分に當り漁期中に於ける北西風十六日に對し漁獲日數は八日にして五割、即ち半數の漁獲ありしことなる。次は北東風の十二日にして、内漁獲四日にして三割三分強に當る、その他南西風之れに次ぐ。南風五日に對し漁獲一日は其の率最も悪し、然れ共風向は漁獲の多寡に大なる影響なきものと如し。

(ロ)染料の比較

八年度より使用せる象印溢エキス染めの網地は既に二ヶ年の試験を經、昭和六年來二ヶ年に亘り比較研究せる八種染料中の優秀品彌富式と略同様の効果を發揮し價格に於て彌富式より低廉なる長所あり推奨に値するものと認めらる。

(ハ)收支計算

支出の部

三三六三圓九九

内 譯

一七〇五圓三八

内

七四圓〇〇

二五、〇〇

三三四、〇〇

一一〇、〇〇

二〇二、〇〇

一一二、五〇

六九、二八

總支出額

漁具材料代

二〇手、一二本、一五節網地二〇〇尋代

三六本、八節一〇掛網地一〇〇尋代

二〇手、九本、一四節網地一、二〇〇尋代

砂 利 代

空篋 二、八〇〇枚代

浮子竹 二〇〇本代

染料 代

五六三、四〇
 三五一、五〇
 八四、〇〇
 八四、一〇
 五、六〇
 四五〇、四七
 內
 三一五、四七
 一一〇、〇〇
 二五、〇〇
 五八九、五一
 內
 五四四圓九二
 一五、〇〇
 二九、九五
 六一八、六三
 內
 一二四、〇〇
 一六六、五五
 一四四、三〇
 一〇三、五〇

藥網代

藥網代

カズラ子 二、八〇〇本代

藥繩代

針金等代

漁船費

發動機船借入費 三ヶ月分

漁船三艘借入及修繕費三ヶ月分

胴船借入費 七日分

漁夫給

漁夫歩合金

網卸人夫賃

漁夫酒肴、菓子代

其他經常費

漁場料

發動機船燃料其ノ他

鰯積取料

販賣手数料(賣上ノ四分)

三七、〇〇
四三、二八

木炭及薪代
雜費

收入ノ部
二五八七圓四二

總收入額

内
二四七三、四八

鯰六七舟代
鯰五山代

七三、四二
三五、八〇

マイカ一、〇七二尾代

四、六〇

ヤリイカ二山代
アッコ一尾代

差引

七七六圓五七

缺損額

六、海洋調査

(一) 海洋横斷觀測
海洋の基本調査の目的にて國立水産試驗場及各縣水産試驗場と相連絡施行するものにして前年度より繼續實施せり。本觀測は本縣適當たる祿剛崎より北々西五十湮間に於ける水温比重等を五月、六月、八月の三回施行し、他は經費の都合に依り中止したり、其の結果別表の如し。

祿剛崎北々西五十湮觀測表

五月三日施行

比	水						透	風	風	氣	天	事 項 位 置		
	三	二	一	五	二	一								
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	明	度	力	向	温	候	祿 剛 崎 北々 西	
二 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇
表 一 五 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 〇 米	〇 五 米	〇 〇 米	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇	〇 〇 〇

水	透風風氣天				事項 位置	
	明	度	力	向		温
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨
一五二一表 〇〇五〇 米米米米面	一八〇	一八四	一八九	一八〇	二〇五	雨

六月十二日施行

重
三〇〇米
二〇〇米
一〇〇米
五〇米
三〇〇米
二〇〇米
一〇〇米
五〇米
三〇〇米
二〇〇米
一〇〇米
五〇米
三〇〇米
二〇〇米
一〇〇米
五〇米

透風風氣天	事項	位置
明 度力向温候	三〇 三	西北西 三〇 晴
	同	一〇 三
	同	二〇 一
	同	三〇 一
	同	四〇 一
	同	五〇 一

取	比	温
三〇〇米	二〇〇米	一〇〇米
一〇〇米	五〇米	二〇〇米
二〇〇米	二五〇米	一〇〇米
三〇〇米	二五〇米	二五〇米
二〇〇米	二五〇米	二五〇米
一〇〇米	二五〇米	二五〇米
二〇〇米	二五〇米	二五〇米
三〇〇米	二五〇米	二五〇米
二〇〇米	二五〇米	二五〇米
一〇〇米	二五〇米	二五〇米

八月五日施行

比							水						
三	二	一	五	二	一	表	三	二	一	五	二	一	表
〇	〇	〇	〇	五	〇	面	〇	〇	〇	〇	五	〇	面
米	米	米	米	米	米		米	米	米	米	米	米	米
				二五七	二六〇	二五三					二四・五	二四・三	二五・三
				二五四	二五四	二四七				二・三	三・〇	二四・四	二四・八
		二五九	二六四	二五四	二四六	二五四			三・二	二七・八	三・六	三・五	三・八
	二五二	二五六	二五九	二五九	二五八	二四九		五・九	二・五	二五・五	一九・六	三・二	三・五
二五九	二五九	二五一	二六一	二五七	二五二	二四一	一・八	五・五	一〇・九	二四・四	一七・七	三・四	三・三
二五九	二五九	二五八	二五八	二五二	二四九	二四九	三・四	九・九	一四・三	一八・四	三・六	三・五	

(二) 沿岸定置観測

海洋基本調査並に鰈及鰻の漁況と海況との關係を明にする爲め毎月三回(一日、十一日、二十一日)之れを施行したり、其の結果左表の通りとす。尙既往四ヶ年間の鰻漁期の水温變化を取纏め圖表を得たるを以て追録す。

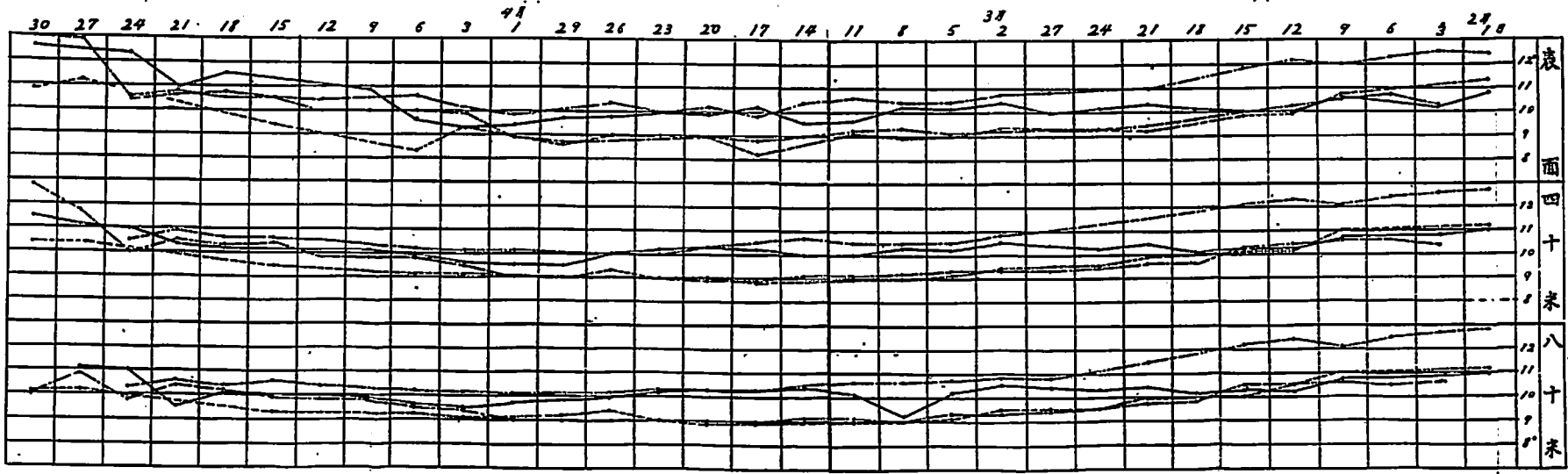
宇出津地先定置觀測表

月 日	天候	風		水			溫			比			湖 流(湍)	透 明度(米)
		風向	風力	表面	四〇米	八〇米	表面	四〇米	八〇米					
四月一日	晴	南	二	九・三	九・三	九・三	二五三	二四六	二五四	東 稍強	一八〇			
同 十一日	同	南東	一	一〇・八	九・三	九・〇	二五〇	二五三	二五三	北東 ½	三・〇			
同 二十一日	同	南	二	一〇・三	九・三	九・四	二四八	二四七	二五六	東 ½	一八〇			
五月一日	曇	東南東	二	二三・〇	二・八	二・〇	二五八	二五九	二五九	北東稍強	缺			
同 十一日	同	南	一	一六・〇	三・六	二・八	二三三	二四六	二六三	南西稍強	一九〇			
六月一日	晴	東	一	一七・四	三・三	二・八	二四三	二五三	二六七	北々東弱	三六〇			
同 十一日	同	同	一	一七・八	一九・五	一五・〇	二五九	二五八	二五三	東稍強	三六五			
同 二十一日	雨	北西	二	二〇・〇	一八・四	一六・七	二四七	二五八	二五六	東	三六〇			
七月一日	曇	南西	三	二〇・七	一九・八	一九・四	二五〇	二五三	二五六	北東弱	缺			
同 十一日	曇	北東	三	二二・三	二・二	一九・六	二四三	二五二	二七七	南西弱	缺			
同 二十一日	曇	同	三	二二・〇	二〇・七	一九・五	二四六	二五九	二七四	東急	缺			
八月一日	同	同	三	二二・〇	二〇・七	一九・五	二四六	二五九	二七四	東急	缺			
同 十一日	同	同	三	二二・〇	二〇・七	一九・五	二四六	二五九	二七四	東急	缺			
同 二十一日	同	同	三	二二・〇	二〇・七	一九・五	二四六	二五九	二七四	東急	缺			

同 二十一日	同 二十一日	三月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	二月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	一月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	十二月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	十一月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	十月 十一日	同 二十一日	同 二十一日	九月 十一日	
曇	同	同	晴	曇	晴	曇	晴		同	同	晴	曇	晴	曇	晴	曇	雨	同	曇		
北東	同	北西	南東	西	北西	西南西	西		北東	北	西南西	西	西	東	北東	西	同	北東	西		
二	二	三	三	三	三	三	三		一	三	六	二	三	三	一	二	二	二	二	一	
10.1	9.6	10.1	10.3	10.4	10.8	11.9	13.6		14.3	15.0	15.5	17.1	17.5	18.8	19.7	22.3	23.3	23.8	25.8		
10.3	10.0	10.5	10.4	10.4	11.0	12.0	13.0		14.2	15.3	16.0	17.3	17.6	19.1	19.6	22.3	23.3	24.2	25.0		
10.3	10.1	10.5	10.4	10.4	11.0	12.2	13.8		14.2	15.4	16.2	17.2	17.8	18.8	19.3	20.8	21.8	22.6	23.6		
25.9	25.6	24.4	25.0	25.0	24.9	24.6	24.5		24.8	24.8	24.6	24.7	24.7	24.3	24.5	24.0	23.9	23.6	23.5		
25.7	25.4	25.6	25.1	25.3	25.3	24.5	24.5		24.3	24.8	24.5	24.6	24.7	24.4	24.4	25.8	24.5	24.8	24.5		
25.0	25.9	25.3	25.7	25.0	25.8	25.5	24.7		24.7	24.9	24.8	24.8	24.7	24.9	25.3	25.3	25.5	25.2	24.6		
南西 強	北東 強	南西 稍強	南東 弱	北東 弱	北東 弱	南西 弱	西 稍強		北東 弱	西 弱	南西 弱	東 弱	南東 弱	北東 強	南西 稍強	北東 稍強	北東 弱	北東 強	北東 弱		
缺							缺												缺		
17.0	17.4	16.5	13.7	17.4	17.4	17.0	17.4		13.3	19.7	19.7	15.0	16.0	19.0	17.0	15.0	16.0	16.0	13.0	測	

超濠湖水位四年水溫表

備考
 九八七六
 年年年年



七、漁 況 通 信

前年よりの繼續事業にして縣内重要漁村十ヶ所を選定し、囑託通信員を置き周年各種漁業の漁況を通信せしめ、又鰯漁期中は各大謀網、漁場より日々通報を受け之等を本場にて取纏め各當業者に報告し従業上の參考に供し併せて漁業基本調査の資料となすものなり。

(一) 通信員の設置場所及通信員氏名

江沼郡橋立村	澤田善五郎	能美郡根上町	山崎與三松
石川郡金石町	石見徳三郎	羽咋郡高濱町	泉元與三
羽咋郡西海村	西村次須計	羽咋郡西浦村	川端原一
鳳至郡輪島町	浅野榮吉	鳳至郡南志見村	濱高善次
珠洲郡西海村	藤高久作	鹿島郡東島村	平砂一治

(二) 通信回数

受信回数	一般漁況	一四五回	鰯漁況	三七八回
發信回数	一般漁況	一三回	鰯漁況	一一回

八、鰯 標 識 放 流

本事業は國立水産試験場及各縣水産試験場と連絡し鰯の洄游経路を闡明ならしめ以て鰯定置漁業經營上の安定を計る目的なり
放流要項左の如し。

(一) 標 識 票 銀製耳搔型(尾柄に巻く)

③ 0 — ① 19

(二) 放流月日 放流場所 放流尾數

月 日	天 候	風	水 温	尾 數	放 流 場 所
十二月十二日午後四時卅分	晴	北 一	一五・三	五尾	宇山津漁場
同 十三日午前八時三十分	同	西 一	一四・五	五尾	鳳至郡三波村藤波漁場
同 午後四時	曇	同 二	一四・八	五尾	同 波並漁場
同 十八日午後五時	同	同 三	一四・三	五尾	鹿島郡北大吞村岸端漁場

(三) 十一年三月三十一日迄に再捕せられたるもの左の通り

放 流 場 所	再 捕 年 月 日 時	再 捕 尾 數	再 捕 場 所
岸 端 漁 場	十年四月二十五日午前九時	一尾	島根縣那賀郡濱田町沖合馬島東端
波 並 漁 場	十年四月十六日午前九時	一尾	山口縣阿武郡高島村大島名切漁場

九、漁船々員養成

前年度より開始せし事業にして漁船の船長、機關長及無線通信士の養成を目的とし今年度は甲板部二名、機關部二名を試験船白山丸に乗組ましめ、月手當貳拾圓を支給し技術及學理を修得せしめつゝあり。内機關傳習生一名は既に終了したり、尙無線傳習生は經費の都合上之れを採用せず傳習生左の如し。

入場年月日

氏 名

昭和八年四月二十日

山 瀬 正 成

同 同
 昭和八年七月十五日
 昭和九年五月二十五日一ヶ年修了
 安宅健一
 大濱三榮
 山瀬正治

十、潜水講習

定置漁業の改善及浅海増殖技術向上に資する爲め縣水産會と合同し八月六日より同十九日に至る二週間宇出津町地先に於て開催し、講師には日本定置漁業研究會理事一等潜水士山下彌三左衛門氏を聘し好成績裡に廿日修了式を舉行し左記十三名に同會所定の三等又は二等潜水士の證書を授與し、縣水産會より右十三名及珠洲郡寶立村島中吉成に講習修了證書を授與せり。因に三等潜水士は二十五米水深まで、二等潜水士は五十米までの潜水に堪ふる者にして、潜水器は今年度に限り本場備付のマスク式のみを使用せり。

三等潜水士

石川縣珠洲郡三崎村字寺家	宮崎	藤作	同	珠洲郡蛸島村	川元	秀次
同 寶立村字春日野	金田	勇昇	同	鳳至郡宇出津町	二谷	金次
同 鳳至郡宇出津町	東崎	行雄	同	三波村字藤波	濱浦	榮作
同 三波村字波並	井田	正忠	同	諸橋村字加川	宮下	幸作
同 諸橋村字沖波	新本	省三	同	鹿島郡石崎村	石倉	喜作
同 鹿島郡南大香村字東濱	山崎	市郎	富山縣射水郡新湊町荒屋	北川	政二	郎
二等潜水士						
富山縣氷見郡女良村字中波	田川	三次郎				

製

造

部

一、鱈水煮罐詰製造試験

(一) 試験の趣旨

鱈利用を目的としたる昭和七年度來の繼續事業なり、前年度に試験せる本品は天日乾燥に依りし爲め脱水不充分、表皮軟弱にして皮剥け若くは肉崩れを生じたるに、翌罐のものは輸出不向の評ありたるに依り本年度に於ては之等缺點を除去し廉價なるトマトサーデン代用品として輸出試賣し、所期の目的を貫徹せんことを。

(二) 試験場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和九年四月二十九日、至同年五月三日

(四) 試験の方法

1. 製造法

本年度に於ける製造法に關しては農林省水産試験場木村技師の指示を受け施行したり、而して一尾七〇瓦（一八、五匁）内外の大羽鱈の魚鱗、頭部、内臓の除去等、前年度同様處理し洗滌後、母氏一五度食鹽水に約三〇分浸漬し木炭乾燥器中に尾柄部を針に刺し懸垂、攝氏八五度乃至一〇〇度に於て三〇分間乾燥後楕圓一號罐に四二五瓦（一一三匁）宛肉詰し丁字油一、二滴添加し罐蓋を覆ひ脱氣一五分、殺菌一一三度、一時間一〇分を施せり。

2. 乾燥器の構造概要

間口、奥行共一、六三米（五尺四寸）高さ一、九七米（六尺五寸）の木製トタン板張函の中央天井に三六、四糶（一尺二寸）角高さ九〇、九糶（三尺）の排氣孔を附し、兩側に各二枚の扉を附し且つ下部四ヶ所に給氣孔を附す。

内部は火爐より六〇、六糶（二尺）上り二二糶（七寸）間隔に棧六段を設け兩側より都合一二枚の蒸籠を收容す。而して各蒸籠には加除自在の横棧二〇本を附屬せしめ右棧より二〇本宛の針を出す。

火爐は二條にして各ロストルを有し、銅板を覆ひし温度を平均せしむる爲め、更に中央に覆を爲し兩爐よりの火熱を導き且つ下部の溝より給氣を爲す。

収容量は魚体の大小に依るも一回約三函分です。

3. 製造の経過並に數量

昭和九年四月二十九日より五日間に於て使用原料六八六疋(一八二貫)に對し製品一五函を得たり。

4. 乾燥器に依る脱水程度(乾燥前に對する重量比)乾燥時間三〇分、木炭消費量五、六疋(二貫五〇〇匁)

位 置	百分比	摘 要	位 置	百分比	摘 要
上ヨリ一段	八四・四〇		上ヨリ三段	八一・五〇	乾燥時間前半六段ニテ
同 四段	八七・五〇		同 六段	八四・二五	同 同三段ニテ
平 均	八四・四一				

備考 百分比ハ三回平均値ナリ

(五) 結 果

本試験は漁の都合に依り大羽鰹を原料とせしるも元來の目的は醜産する中羽鰹の利用にあり。故に中羽鰹平均相場三七、五疋(一〇貫)四〇錢のものを原料とするときは一函當四圓七〇錢の生産費にて充分なるべきも、今回は三七、五疋(一〇貫匁)四圓五錢の高價なる原料なるを以て經濟的に不引合なるは明白にして、單に製法、品質等の研究に止めたり。

楕圓罐一號一函當り原料四五、七五疋(一二貫二〇〇匁)を要し、製品は大体に於て香味佳良にして皮剝け等も少かりしも、乾燥中多脂肪のものは皮下に身割れを生ずるもの多く又尾柄切れて落下するもの約五%に及びたり。

平均脱水量一五・五九%にして乾燥程度充分なるも、尾柄部針刺に相當手間取るを以て今後大量生産に資する爲めには一層の研究を要すべし。

製品一五函は東京野澤組の手を経て海外試賣中なるも結果未詳なり。

一、フイシユミール製造試験

(一) 試験の趣旨

七年度よりの繼續事業にして搾粕を原料とし、優秀なる天日製フィッシュミールを得、外國輸出品若くは内地に於ける動物飼餌料として搾粕の消費減を救ひ其の市價維持を策らむに在り。

(二) 試験場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和九年五月六日、至同月三〇日

(四) 試験の方法

原料は海水を以て洗滌し、一回に約七五疋(二〇貫)を約二倍容量の淡水中に煮熟するこみ八分乃至九分にして、浮上せる油脂を掬出したる後、魚を搾胴に投じ搾胴の高さの中央部位に水平に南京筵を挿みヂャツキーに依り長さ四尺のボートを以て、約二三―四分間壓搾して一胴より直徑四七糎(一尺五五)厚さ一二糎(三寸九分六)重量一七一八疋(四貫五〇〇匁乃至四貫八〇〇匁)のもの二個を得、通風良好なる場所に貯藏する事一五日乃至一ヶ月にして後、押切様の挺子式長刃により破碎し、筵上に於て充分乾燥し篩目時に付き一七目のものを使用して粉碎機の能率向上を圖りたり。

(五) 結果

原料は中羽鰻の一尾三〇瓦(八匁)内外のもの二五、四〇八疋(六、七七五貫四)を使用し、製品一二三袋「一袋四五疋六三(一二貫二〇〇匁)詰」總量三、六一三疋四一(九六〇貫三〇〇匁)を得たり、此の試験成績を摘記すれば左の如し。

イ、煮熟法の効果

今回の供試原料は脂肪少なく、従つて煮熟中に浮上する脂肪量僅少なりし爲め魚体抄上前、特に之れを除去する必要を認めざりき。

ロ、壓搾時間の關係

在來法により壓搾せる玉粕と同程度迄壓搾するに二十四分内外にて足り、約六一七分間時間を短縮し得るが如し。

ハ、油水排除量の増加

在來法に依る玉粕歩留四四・二%、改良法に依るもの四二・三%にして、即ち一・九%を減少せるを以つて逆に同量の油水排

除量を増加せるを知る。

ニ、玉粕貯藏中に於ける乾燥程度

十五日間貯藏中在來法のものに比し二・二%の重量減を示したり。

但し貯藏中の氣温最高平均一度四四、最低平均一度二六にして雨雪の日連續せるを以つて蒸發は甚だ緩慢なりき。

ホ、フィシユミールの歩留

歩留二・〇九%、前年度に比し〇・一一%を減少せり。

へ、收支計算

收入 金五百五拾貳圓貳拾五錢也

内 譯

五四六圓三五 フィシユミール 一二三袋代

五、九〇 鰻 油 二・五罐代

支出 金八百參拾參圓五拾錢也

内 譯

品名	数量	單價	金額	摘要
中羽鹽	(三) 五〇八斤 (三) 七四四斤 (三) 八五〇斤 (三) 九〇〇斤	七〇〇 九〇〇 九〇〇 九〇〇	五〇四・七〇〇 三・五八〇 三・五八〇 三・五八〇	男人夫ハ一圓ノモノ八人一・一圓ノモノ 二八人ナリ
玉石製造人夫賃	男 (三) 三三斤 女 (三) 三三斤 玉粕 三六個	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇	三・三三〇 三・三三〇 三・三三〇	
搾粕乾燥人夫賃	二三人	一・一〇〇	三・三〇〇	
粉碎人夫賃	二三人	一・一〇〇	三・三〇〇	

水	煮	建	南	動	麻	麻	運	雜	計
道	籠	建	京	力			搬		
料	代	代	代	料	袋	糸	賃	費	
一ヶ月	二個	香枚	五束	半ヶ月	二三袋	一九	二三袋		
三〇〇〇	二五	三〇〇	八五	五七〇〇	四六〇〇				
三〇〇〇	二五〇	一〇〇〇	二二五〇	七八五〇	四二五〇	四六〇〇	四二五〇	一七〇〇	八三・五〇〇
				粉 碎 用					
									本場ヨリ神戸湊川驛レール渡

差引 金貳百八拾壹圓貳拾五錢也 損失

尙本年度に於ける鯉漁業は稀有の不振にして前年度に比し數量に於て半減價額に於て二倍半の高騰「三七・五疋（十貫匁）七十四錢」を示し到底經濟上採算の見込なかりしを以つて品質の改善研究に止めたり。

ト、試賣結果並に成分々析表

製品は三菱商事神戸支店へ一英噸當り九拾九圓五拾錢にて輸出品として賣却し天日製品としては最高價格を獲得し、色澤、香氣良好にして飼餌料として適するも、長き小骨の存するは好しからず且つ水分稍々多しとの評を受けたり。

成分表左の如し

水	九・九九%	蜜	一〇〇・〇八	磷	七〇・〇九
脂肪	五・〇二	遊離脂肪酸	一・八一	塩	一・五五

本表中輸出品特等（エキストラ）級の規格に合格せざるは遊離脂肪酸のみなるを以つて來年度に於ては特に之れが除去に努めんとす。

三、簡易乾燥装置試験

(一) 試験の趣旨

本縣に於ける鰯、鱈、其他重要魚族盛漁期は概ね冬季及び早春なるも天候不良にして各種乾製品の製造に甚だ困難を感じるを以つて、設備費低廉にして比較的能率高き乾燥装置を考案し一般に普及せしめんとす。

(二) 試験場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和九年十一月十七日、至同月二十一日

(四) 乾燥装置概要

別掲圖面の通間口七、三米（四間）奥行一、八米（二間）高さ二、七米（九尺）の乾燥室下部に鐵板製煙道三條を設け、下段煙道の端はロストルを有する焚口とし熱氣は上方二條の煙道を経て煙突より排出せらる。別に四ヶ所の給氣孔ありて何れも下段煙道の下に開口し、給氣を豫め若干加温し得る如くし、排氣孔は天井ニヶ所にありて自然通風式とす。

燃料は薪にても石炭にても可なり。
乾燥棚は固定し二二種（七寸）間隔を以つて七段乃至九段とし、一回收容量生原料七五〇疋（二百貫）とす。本設備に要せし費用左の如し。

設備費 金四百參拾參圓也

内 譯

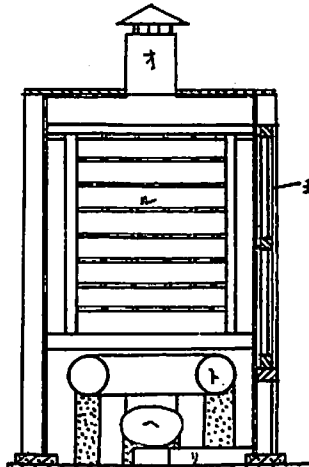
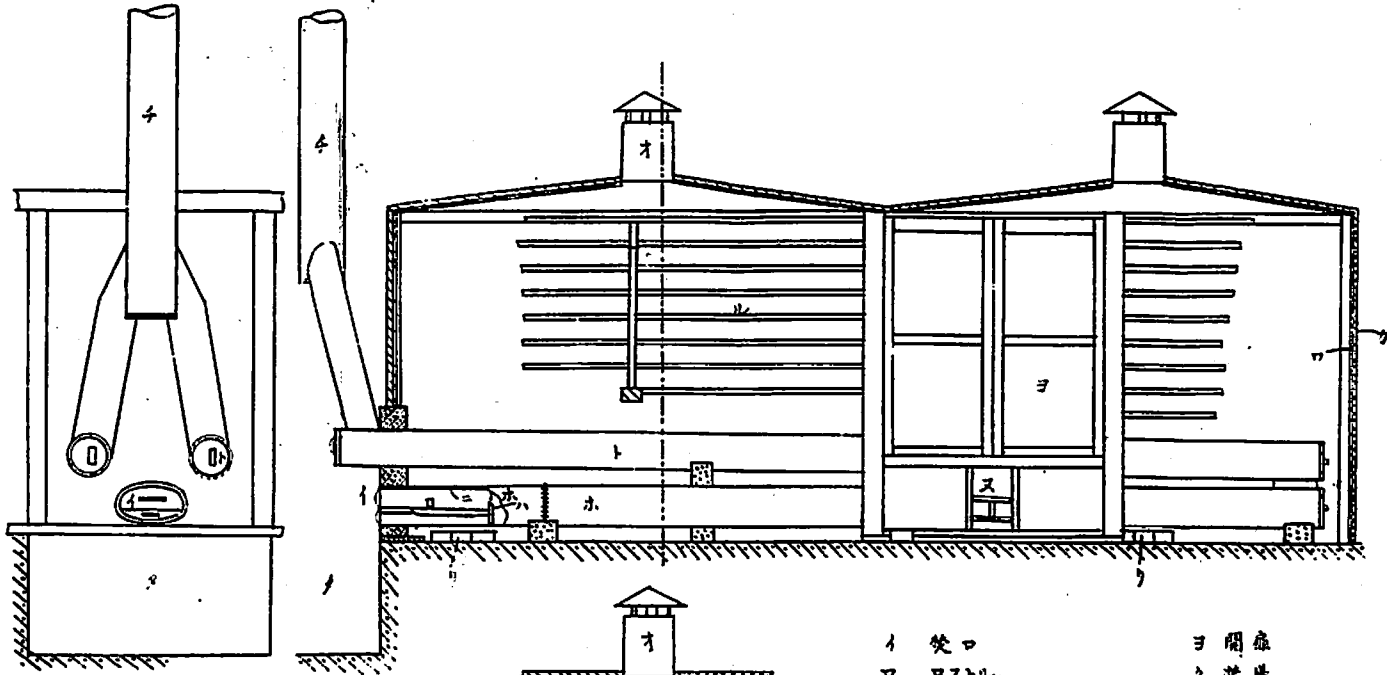
二二八圓〇〇

給熱装置一式

一三五、〇〇

乾燥棚及扉等

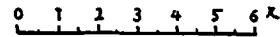
簡易乾燥装置構造圖



- イ 焚口
- ロ ロストル
- ハ 石炭止
- ニ カバー
- ホ 燃焼室(一分厚)
- ヘ カ一給熱管(七型)
- ト カニ... (五型)
- ナ 煙突 (-...)
- リ 給気孔
- ス 温度調節弁
- ル 乾燥機
- オ 採見筒
- ワ トタン板張
- カ 板張

ヨ 開扉
ク 焚場

縮尺



七八、〇〇 乾燥折三〇〇枚分

(五) 試験の方法

含脂量少なき中羽鰻を淡水を以つて洗滌し乾燥折「長さ五七、五糎（一尺八寸九分）巾四七糎（一尺五寸五分）高さ〇、三糎（一寸）」に並べ十枚を重ねて煮熟し、放冷後乾燥装置内に收容し、乾燥六一七分程度に到りて上下棚の折を交換し同時に魚体の手返しを行ひ若干休乾後、更に乾燥を續行完了す。

(六) 煮乾鰻乾燥試験の経過並に成績概要

昭和九年十一月二十日 天候 曇

外氣温度 一〇度乃至一一度

同湿度 七二%

鰻の種類 まいわし（中羽）

体重量 二六（六・九匁）乃至四〇瓦（一〇・六匁）平均三〇瓦（八匁）

收容量 七一五疋（二九〇貫）（生鰻として）

製品 一五六、三七疋（四一貫七〇〇匁）

歩留 二一・八%

装置内温度（中央附近平均）

點火後一、〇〇時間 五〇度

點火後二、〇〇時間 五七度

點火後三、五〇時間 六七度

一夜休乾（半数乾了取出）

點火後一、〇〇時間 七五度

點火後二、〇〇時間 八八度

點火後三、〇〇時間 七〇度

乾燥時間 七時間

乾燥燃料費 一圓八〇錢

内 譯

石 炭 九五疋 一圓五〇〇

薪 六〇疋

圓三〇〇

煮乾鰻乾燥能力(一晝夜) 五三〇疋(一四一貫)

煮乾鰻三七・五疋(一〇貫) 當燃料費四三錢一

裝置内温度

水平的觀測(最下段乾燥棚三ヶ所)

ロストル上温度七三・五度の場合、中央六〇度、奥端六八度

垂直的觀測(中央部を三段に分つ)

下段六〇度の場合、中段五三・五度、上段五五度。

本試験は概括的にして未だ詳細なる結論を得ざるも、設備費低廉にして比較的能率高く大体に於て所期の目的を達し得る事を認めたり。

但し設備費に關しては本場内物置の一部を改造せるものなるを以つて床並に三方の壁を其の儘利用し得たる點を考慮に入るゝを要し、又裝置内各部位に依り若干温度に差違あるを以つて適宜乾燥物の位置を交換する煩あるを免れず。

四、鯖其他水族利用試験並に製造講習

其一 鰻玉粕製造

(一) 試験の趣旨

鰻玉粕の品質を向上し且つ作業能率を増大せしむるは、優秀なるフィッシュミール原料を得る上にも將又搾粕價格の向上採油量の増加等に至大なる關係を有し、之れが改善は刻下の急務なるを以つて、現在本縣に行はるゝ玉粕製造法を基礎とし之れに關する各般の調査試験を爲さんとする。

(二) 試験の場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和十年二月十二日、至三月二十日

(四) 調査試験の要領、経過並に結果

1. 本縣鰻搾胸の形状と壓搾との關係調査

1. 要旨 現在本縣に於て行はるゝ鰻搾胸の形状が壓搾に對し如何なる關係にあるやを明かにせん。

2. 調査の方法 本縣固有の専用搾胸を用ひ、中心に赤色素を挿入して壓搾し、玉粕中心並に側面の水分を測定し、併せて色素流出状況及び玉粕各部の壓搾程度を觀測せり。

3. 試験の経過並に結果

本試験に使用せる搾胸の形状は木製圓筒形にして上方部直徑四三・九釐（一尺四寸五分）下方部直徑四〇・九釐（一尺三寸五分）にして稍々下方狹まり側面に十六條の縱溝を有す。

如斯く上下兩端直徑に差を設くるは玉粕拔出しに便なる爲めなるも、之れが爲め上方蓋の下にパッキングを挿入せざるべからざるを以つて玉粕は上外縁並に側面より餘分の壓力加はり、中心よりの油水排除に相當障害を與ふるが如し。

生原料七五疋（二〇貫）を煮熟し四〇分手動壓搾して得たる結果玉粕中心は側面に比し水分平均四・二三%の多きを示し、部分的に壓力異なる事を推測し得たり。又玉粕を縦切り並に横切りして檢するに、中央に挿入せる赤色素は水平に一方向に向け流出し、側縁附近に到りて稍々上方に擴散せるを見、油水は壓力弱き方向を求め大部分は水平的且つ一方向きに流出するを知りたり。

次に玉粕を指頭にて壓するに中央部は稍々軟く側縁、上面、下面附近は堅く締り居り、前記水分定量の結果と一致せり。又玉粕が層々上方に向け弧狀を爲し壓搾され居るは壓搾當初に於て魚を搾胸に盛上ぐる結果にして、壓搾には中央の壓力を稍々高むる點に於て寧ろ可なる方法なるべし。

之れを要するに當地方の壓搾法を以つてすれば壓搾過程の當初に於ては、玉粕中央部の壓力は側面附近の壓力よりも稍々高く大部分の油水は側面より流出するも、壓力高まるにつれ漸次側壓を増加し、遂に中央よりの油水の流出は阻止せらるゝ。

ものゝ如く、本縣鯉搾胴の形状は壓搾上甚だ不利なるを知るべし、即ち搾胴の上下兩端直徑に差を設け、又上蓋の下縁にバツキングを置くは徒らに側壓を増加せしめ、側面と中央との壓力を不同ならしめ油水の排除を阻害するを以つて搾胴は之れを平行的としバツキングを廢するを可とす。

(ロ) 手動壓搾時に於ける煮熟鯉保温裝置試驗

1. 要 旨 壓搾時に於ける魚体温度の高低は脱脂率に影響する處多大なるべきを以つて本試驗を施行せり。
2. 試験の方法 一般當業者操作の方法に従ひ中羽鯉を處理煮熟し搗を以つて抄ひ上げて目簾に移し、在來の儘の搾胴に運搬しヂャツキーにより壓搾せる場合に保温裝置(トタン製圓筒の外側に南京袋二枚合せ巻付)を施したる搾胴を用ひたる場合この結果を比較せり。

3. 試験の經過並に結果概要

事項	温度		氣 温	摘 要
	従 來 式	保 温 式		
檢温時期				
煮 熟 中	九三・〇	九三・〇	二・二	煮熟時間八分運搬處理時間三分 壓搾時間三〇分
壓 搾 直 前	八三・四	八三・五	二・二	
壓搾直後 玉粕中心 側面	八二・一 六九・五	八二・三 七三・五	二・二	

備考 試験回数十回の平均値なり

右結果に徴するに保温裝置を施せるものは然らざるものに比し玉粕中心に於て一、二度、同側面に於て四度何れも高く相當効果あるを認めたり。然れ共煮熟より壓搾に到る運搬處理方法拙劣にして、此の間に於ける熱量の損失甚大(温度差九・六度乃至九・五度)なるを以つて、同時に本處理法を改善するの要あるを認む。

(ハ) 油水排出量と壓搾方法との關係調査

1. 要 旨 玉粕壓擗中に於ける壓力、時間、温度並に壓擗方法は何れも油水の排出量に重大なる關係を有するも、適當なる壓力の決定に關しては本場にては未だ玉粕壓擗計を設備するに到らざるを以つて之は明年度に譲るこゝし、本年度に於ては壓力を除外せる時間、温度並に壓擗方法に就き大體の判定を得るを目的とせり。

2. 試驗の方法

一定量「六八、二五疋（一八貫一六〇匁）」の生原料を各々煮熟し一、從來法に依るもの二、搾胴の中央に南京麻布を敷きたるもの三、二、の方法を採れるものに更に前記保温装置を施せるものに分ち、チャッキを以つて同一人をして夫々壓擗「壓擗用ボートの長さ一、二米（四尺）」せしめ十分後並に三十分後に於て夫々排出油水を測定せり。

3. 試驗の經過並に結果概要

壓擗時間	從來法壓擗（三個平均）				麻布挿入壓擗（三個平均）				同上並に保温装置（三個平均）				備考	
	魚体重量	温度	排出全油水量	排出油量	魚体重量	温度	排出全油水量	排出油量	魚体重量	温度	排出全油水量	排出油量		
壓擗直前	生(六・五) 疋(八貫二匁)	△	立	立	疋(六・五) 疋(八貫二匁)	△	立	立	疋(六・五) 疋(八貫二匁)	△	立	立	同油 量/全油 對スルニ %	
同十分後	△	△	(三七〇)	(一八〇)	△	△	(三七〇)	(二〇〇)	△	△	(三七〇)	(二〇〇)	同油 量/全油 對スルニ %	
同三十分後	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	同油 量/全油 對スルニ %	
同十分後	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	同油 量/全油 對スルニ %	
同三十分後	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	(九・四)	△	(三六)	(一六)	同油 量/全油 對スルニ %	

右表の如く壓擗初期に於ては排出全油水量に對する油量平均七・九八%にして水分其の大部分を占むるも、三十分後に於ける結果は排出油水量の約半量は油分にして前記の如く壓擗方法に於ては南京麻布を挿入せるもの從來法に優り、保温装置を施せるもの更に優秀なる成績を示せるより見れば温度の油水の排出に重大なる關係あるは明かなり。次に時間の長短は壓擗効果に重大なる關係を有するは前表に見る如くにして、一定壓力の下に於て一定時間を要求せらるる

べきこと推測に難からず、雖も、本試験は人力を以つて壓搾せるを以つて多少壓力不同なるを免れず、又其の壓力の大きき不明なるを以つて未だ之れを云々すべき時期に非ず、明年度に於ける本試験を俟たんす。

(ニ) 特殊装置に依る玉粕壓搾試験

1. 要旨三菱商事株式會社肥料部の依頼により同部考案の装置に依る壓搾効果如何を驗せんす。

2. 試験の方法

鐵兜型鑄物「底部直徑一八釐(六寸)高さ一〇釐(三・三寸)にして十條の縱溝あり」を搾胴底中央に置きてヂヤツキを以つて手動壓搾し、同時に從來法に依り玉粕を製造し、兩者の重量差に依り本装置の効果を比較試験せり。

3. 試験の經過並に結果概算

生原料重量	壓搾時間	壓搾方法	玉						粕						計	重量差	
			I	II	III	IV	V	VI	計	I	II	III	IV	V	VI	計	
10.00	4分	從	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	52.5	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	8.52 ^實 (3.6)	52.5	3.6
10.00	4分	改	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	40.0	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	8.00 ^實 (3.2)	40.0	3.2
10.00	4分	從	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	39.0	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	7.80 ^實 (3.1)	39.0	3.1
10.00	4分	改	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	37.5	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	7.50 ^實 (3.0)	37.5	3.0
10.00	4分	從	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	35.0	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	7.00 ^實 (2.8)	35.0	2.8
10.00	4分	改	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	32.5	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	6.50 ^實 (2.6)	32.5	2.6
10.00	4分	從	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	30.0	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	6.00 ^實 (2.4)	30.0	2.4
10.00	4分	改	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	27.5	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	5.50 ^實 (2.2)	27.5	2.2
10.00	4分	從	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	25.0	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	5.00 ^實 (2.0)	25.0	2.0

總計	三〇〇	三〇〇	三〇〇
	三〇	三〇	三〇
改 從	改	從	改
	(三・八・四)	(三・八・三)	(三・九・五)
	(三・八・七)	(三・八・七)	(三・九・五)
	(三・九・七)	(三・八・七)	(三・九・七)
	(三・九・七)	(三・八・三)	(三・九・七)
			(三・九・七)
			(三・九・七)
	(三・九・九)	(三・九・九)	(三・九・九)
	(三・九・六)	(三・九・六)	(三・九・九)
	(三・九・六)	(三・九・九)	(三・九・九)
	(三・九・九)	(三・九・九)	(三・九・九)
	(三・九・九)	(三・九・九)	(三・九・九)

備考 従は従來法、改は改良法の略なり

右結果に徴するに従來法並に改良法に依り製造せる玉粕重量の差極めて僅少にして一・〇三%に過ぎず、改良法稍々優れるが如きも判然たる壓搾効果を示さず。今後一層の研究を要するものと認めらる。

其二 鯖大和煮罐詰製造

(一) 試験の趣旨

試験船白山丸に依り大和堆に於て漁獲せる鯖の利用法を以て大和煮罐詰を製造し、主として生産費を調査せり。

(二) 試験場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和九年六月二十日、至八月十一日

(四) 試験の方法並に經過

氷藏せる新鮮なる生原料の各鯖を除去し胸鳍付根に於て体長に直角に切斷し、腹部を開き内臓並に血合を除去して洗滌し、罐高(標準罐に非ざるも在庫品に付き十四オンス罐使用)より二分高(二段重ねにして)に輪切りをし母氏五度鹽水中にて血抜二〇分、水切し湯煮一五分にして放冷し炭火焙乾(七〇度乃至八〇度)三〇分を施し、放冷するときは肉の收縮により脊椎骨若干突出するを以つて之れを切斷後、固形肉二八一瓦(七五匁)宛二段に肉詰し調味液「醤油一升(一、八立)水三合二勺

(、五八立)黄ざら一五〇匁(五六二瓦)の割「七五瓦(二〇匁)を注入し脱氣一〇〇度、一五分、殺菌一一五度、一時間一五分にして冷却製了す。
 而して豫備試験後、六月二三日一尾三錢七厘のもの七七〇尾を八月一〇日一、四六五尾を一尾四錢五厘の割にて使用し、合計二、二三五尾より四五函一八罐を製造せり。一尾平均重量六七五瓦(一八〇匁)ミす。
 生産費左の如し。

金貳百九拾九圓九拾六錢貳厘(四五函一八罐代)

内 譯

品名	数量	單價	金額	摘要
鮎	豐函一八罐	二七三	三三〇匁	
石炭	第一回 七〇尾 第二回 一、四七五尾 九〇〇斤(四〇〇匁)	〇〇七 〇〇七 二〇〇	六〇四匁 一四九匁	
木炭	四俵	二〇〇	八〇〇	
醬油	六斗(一〇八立)	一五	一五〇〇	
砂糖	九貫(三、七五匁)	一〇〇	九〇〇	
食鹽	二俵	一七五	三五〇	
粉石	一貫五〇匁(五、六三匁)	〇〇	一五〇	
水	五枚	一〇〇	五〇〇	
助力	二日分	一七五	三五〇	
人夫	男五人 女一人	〇〇〇 〇〇〇	三〇〇 二〇〇	三馬力
計			元九、九三	

而して一罐當生産費一三錢八厘六毛を要し製品賣却價格一罐高一三錢五厘、計二九四圓三錢、廢棄物賣却代三圓、總計二九七圓三錢にして差引缺損二圓九三錢二厘となりたり。

以上の結果よりして罐詰原料に使用すべき鯖は一尾「一八〇匁(六七五瓦)程度のもの」四錢を越ゆるときは到底缺損を免れず、利潤を見る爲めには尠く共三錢五厘以下のものを使用せざるべからざる事を知れり。

其三 煮乾鰻粉未製造

(一) 試験の趣旨 前年度に同じ

(二) 試験場所 本場内

(三) 試験時期 自昭和十年三月十日、至同月二十七日

(四) 試験の方法 鰻玉粕製造用原料中特に新鮮にして含脂量少なき中羽鰻を使用し、乾燥装置試験に於て報告せる通りの方法により煮乾鰻を製造し頭部除去後、フィシユミール用粉碎機に依り粉碎しバトロン紙にて包裝後、石油空罐に十二匁宛封入蠟付けするまでを工程とす。

(五) 試験の経過並に成績

三月一日より同月二十七日に到る期間、製品一、一五五匁を製造し、山砲兵第九聯隊、工兵第九大隊、その他へ一匁(二六七匁) 二二錢の割を以つて賣却、計二五三圓一六錢を得たり。頭部粉未六七匁(一七貫八七)は養鶏餌料として附近へ賣却、一四圓八六錢を得たり。

尚ほ前年度に於ける製品は歩兵第七聯隊、山砲兵第九聯隊、工兵第九大隊、輜重兵第九大隊等に見本的に二四圓四八錢を以つて賣却、又副産物九〇匁(二四貫)は四圓七二錢に賣却せり。

歩留並に生産費は前年度通りにして、一〇貫當(三七、五匁)一圓八四錢の利益なるを以て販路の確立を見るに於ては充分利潤を豫想し得べき事業たることを確めたり。

其四 各種製造講習

一、自昭和九年十一月二日至同月二十日期間鳳至郡宇出津町宇出津實業中等學校の生徒に對し惣太鏝を原料とする節製造講習

を行へり。

- ロ、昭和九年十一月十二日鳳至郡宇出津町宇出津實業中等學校生徒に對し鰻佃煮罐詰製造講習を行へり。
- ハ、昭和十年三月四、五兩日鳳至郡宇出津町宇出津實業中等學校生徒に對し鰻味淋乾製造講習を行へり。
- ニ、昭和十年三月二十一日鹿島郡北大杵村佐々波青年團に對しホームシーマーに依る罐詰製造講習を行へり。

五、指導其他の事項

(一) 燻乾裝置指導

昭和九年十月四日及び十一月三十日珠洲郡寶立村鹿野要太郎に對し熊本縣地方に行はるゝ燻納屋と稱する燻乾裝置(主として煮乾鰻製造に使用)設計及施工の指導を行へり。

(二) 佃煮製造指導

昭和九年十月二十日河北郡八田村北陸食品株式會社の依頼に依り、もろこ佃煮製造指導を行へり。

(三) 節類改良巡回指導

宗太鏝の漁獲薄きため實施するこゝを得ざりき。

二、昭和九年度末現在本場員氏名擔任表

事務擔當別	官職	氏名	摘 要
場 長	農林技師	小林 章之	昭和九年六月三十日前任者片山年轉任ノ後ヲ享ク
漁撈係主任	農林技師	笠松 芳次郎	
製造係主任	農林技師	羽部 修	昭和九年十二月三十一日前任者北野重雄死亡ノ後ヲ享ク
漁撈係	農林技師	寛 博	
會計及庶務係主任	農林主事補	川 畑 彌三吉	
會計及庶務並ニ漁撈係	雇員助手	井 田 正忠	
製 造 係	助 手	東 崎 行雄	
漁 撈 係	白山丸船長	北 久 次郎	
同	白山丸機關長	湊 久 雄	
同	無線電信士	新 井 末太郎	
輪島無線電信所主任	同	大 出 豊	
舩倉島無線電信所主任	同	小 川 武雄	

昭和十一年三月二十五日印刷
昭和十一年三月三十一日發行

鳳至郡宇出津町

發行所 石川縣水產試驗場

金澤市博勞町三十三

印刷人 德野庄吉

金澤市博勞町三十三

印刷所 明進堂

電話一、二七九番